

平成 31 年 度

佐 賀 大 学
入 学 者 選 拔 要 項

佐 賀 大 学

目 次

I	入試日程	1
II	インターネット出願について	2
III	理工学部及び農学部の改組予定について	3
IV	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	4
V	募 集 人 員	23
VI	出 願 資 格	24
VII	選 抜 方 法	24
1	平成31年度一般入試実施教科・科目	25
2	英語外部検定試験の一般入試での利用について	27
3	特色加点制度について（一般入試）	28
4	理工学部と農学部の特色加点（一般入試）及び活動実績報告書（AO入試Ⅱ）の申請・提出方法	28
5	理工学部と農学部の一般入試（前期・後期）における合否判定について	29
6	平成31年度個別学力検査等の出題範囲及び試験方法について	29
7	芸術地域デザイン学部芸術表現コース実技検査の選択方法について	29
8	平成31年度大学入試センター試験の科目選択及び得点の取扱い等について	30
9	JAPAN e-Portfolio の利用について	32
10	平成31年度特別入試（推薦入試Ⅰ）出願資格・選抜方法	33
11	平成31年度特別入試（推薦入試Ⅱ）出願資格・選抜方法	37
12	平成31年度特別入試（佐賀県推薦入学）出願資格・選抜方法	37
13	平成31年度特別入試（AO入試Ⅰ）出願資格・選抜方法	39
14	平成31年度特別入試（AO入試Ⅱ）出願資格・選抜方法	43
15	平成31年度特別入試（帰国子女，社会人）出願資格・選抜方法	45
16	特別入試（推薦入試Ⅰ，AO入試Ⅰ）の配点について	47
17	特色加点制度について（特別入試）	49
VIII	私費外国人留学生入試	50
IX	障がい等を有する志願者との事前相談について	52
X	佐賀大学における個人ノートパソコン等の活用について	53

I 入試日程

選抜種別	学 部	募集要項 公表時期	インターネット 出願登録期間	出 願 書 類 提 出 期 間	試 験 日	合格者発表日	入学手続期間				
一般入試	前期日程 教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 理工学部 農学部	11月中旬	平成31年1月21日(月) ～ 平成31年2月6日(水)	平成31年1月28日(月) ～ 平成31年2月6日(水)	平成31年2月25日(月)	平成31年 3月9日(土)	平成31年3月11日(月) ～ 平成31年3月15日(金)				
					平成31年2月25日(月) 平成31年2月26日(火)						
	後期日程 教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 理工学部 農学部				平成31年3月12日(火)			平成31年 3月22日(金)	平成31年3月24日(日) ～ 平成31年3月27日(水)		
					平成31年3月12日(火) 平成31年3月13日(水)						
特別入試	推薦入試Ⅰ 教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 理工学部 農学部	9月上旬 ※	平成30年10月25日(木) ～ 平成30年11月8日(木)	平成30年11月1日(木) ～ 平成30年11月8日(木)	平成30年11月30日(金)	平成30年 12月10日(月)	平成31年1月21日(月) ～ 平成31年1月24日(木)				
					平成30年12月1日(土)						
	推薦入試Ⅱ 医学部医学科 (一般枠・佐賀県枠・ 長崎県枠)				平成30年10月25日(木) ～ 平成30年11月8日(木)	平成30年11月1日(木) ～ 平成30年11月8日(木)	平成30年12月1日(土)	平成31年 2月13日(水)	平成31年2月15日(金) ～ 平成31年2月19日(火)		
	佐賀県 推薦入試 医学部医学科 (右記出願期間はあらかじめ行われる佐賀 県の選抜を経た上での 出願期間です。)				平成30年11月14日(水) ～ 平成30年11月26日(月)	平成30年11月21日(水) ～ 平成30年11月26日(月)					
	AO入試Ⅰ				教育学部	7月上旬	平成30年8月9日(木) ～ 平成30年8月27日(月)	平成30年8月16日(木) ～ 平成30年8月27日(月)	平成30年9月26日(水) 平成30年9月27日(木)	平成30年 10月10日(水)	平成30年11月13日(火) ～ 平成30年11月16日(金)
					芸術地域デザイン学部				平成30年9月26日(水)		
	AO入試Ⅱ				理工学部 農学部	10月上旬	平成30年10月25日(木) ～ 平成30年11月8日(木)	平成30年11月1日(木) ～ 平成30年11月8日(木)	平成30年11月30日(金)	平成30年 12月10日(月)	平成31年1月21日(月) ～ 平成31年1月24日(木)
					理工学部 農学部	10月上旬	平成31年1月15日(火) ～ 平成31年1月30日(水)	平成31年1月21日(月) ～ 平成31年1月30日(水)	—	平成31年 2月13日(水)	平成31年2月15日(金) ～ 平成31年2月19日(火)
	帰国子女 社会人				理工学部 農学部	9月上旬	平成30年10月25日(木) ～ 平成30年11月8日(木)	平成30年11月1日(木) ～ 平成30年11月8日(木)	平成30年11月30日(金)	平成30年 12月10日(月)	平成31年1月21日(月) ～ 平成31年1月24日(木)
					医学部医学科				平成31年2月25日(月) 平成31年2月26日(火)		
医学部看護学科		平成30年12月1日(土)	平成30年 12月10日(月)	平成31年1月21日(月) ～ 平成31年1月24日(木)							
留私費生外 入国試人	教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 理工学部 農学部	11月上旬	平成31年1月11日(金) ～ 平成31年1月23日(水)	平成31年1月18日(金) ～ 平成31年1月23日(水)	平成31年3月1日(金)	平成31年 3月9日(土)	平成31年3月11日(月) ～ 平成31年3月15日(金)				
	医学部医学科				平成31年2月25日(月) 平成31年2月26日(火)						

※佐賀県推薦入学特別入試(佐賀県による第一次選考)の学生募集要項は、佐賀大学及び佐賀県健康福祉部医務課において配布します。

お問い合わせ先 佐賀県健康福祉部医務課

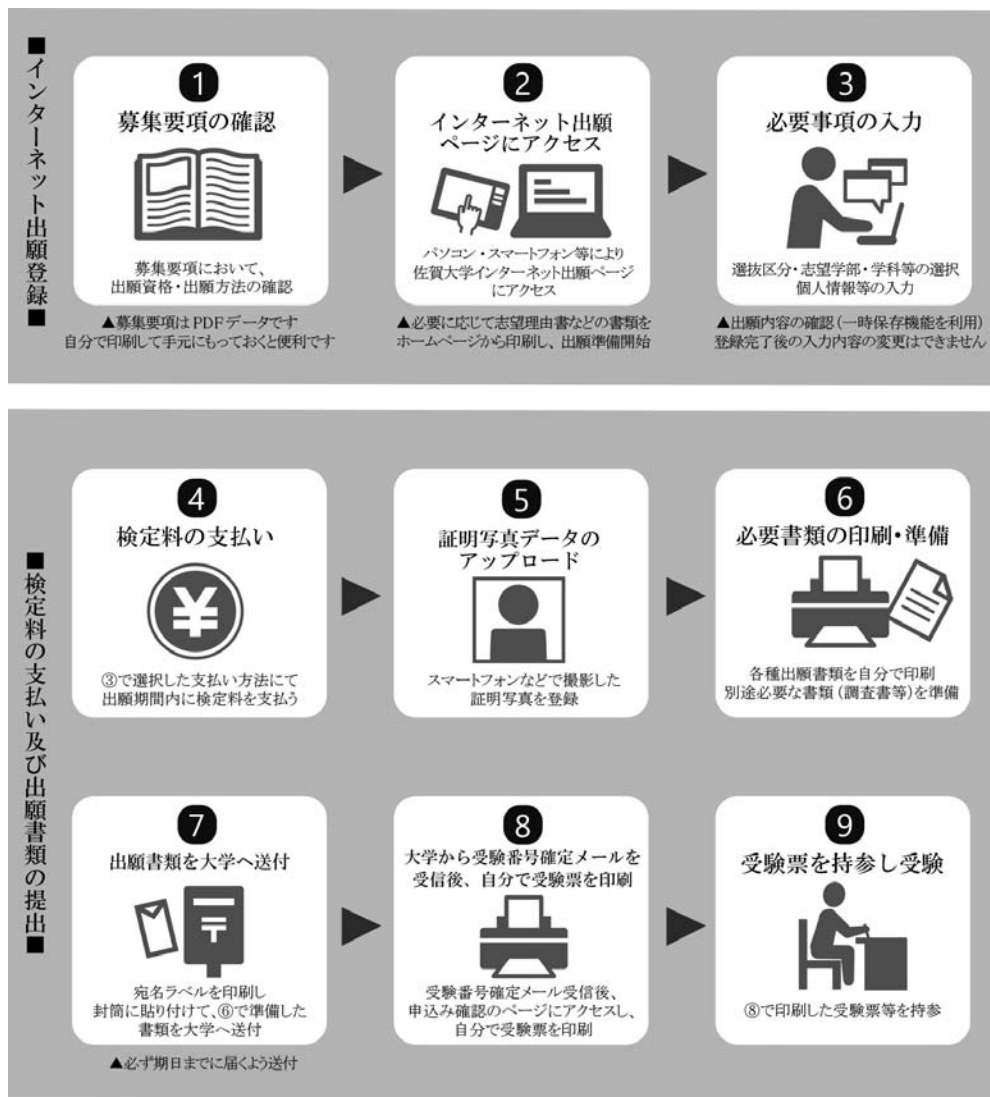
〒840-8570 佐賀市城内1-1-59 TEL 0952-25-7033 <http://www.pref.sagalg.jp/>

Ⅱ インターネット出願について

佐賀大学では、平成30年度の入試より、従来の紙願書による出願受付からパソコン、スマートフォン等を利用したインターネットによる出願受付を行っており、各学生募集要項や出願に必要な書類はホームページでご確認いただいております。

・出願から受験までの流れ

前頁の「インターネット出願登録期間」に佐賀大学の出願登録サイトにて出願情報の登録を行い、「出願書類提出期間」において、検定料の支払いと各種出願書類の提出を行ってください。



事前に準備するもの	備 考
学生募集要項	出願に必要な書類・入試方法・試験日時等を記載していますので、必ず出願登録前にご確認ください。
メールアドレス	パソコン・スマートフォン等で利用可能なメールアドレス
証明写真データ	上半身脱帽正面向き無背景で撮影した jpeg または png データ
プリンター	A 4 用紙を印刷できるプリンター。自宅にない場合は学校やコンビニエンスストアを利用してください。

Ⅲ 理工学部及び農学部の改組予定について

佐賀大学では平成31年4月より改組を予定しており、文部科学省に理工学部及び農学部の改組に関する次のような計画を提出しております。

これらの計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果によって確定するものであり、変更があり得ます。この入学者選抜要項に掲載する募集人員、出願資格・要件、入学者選抜方法及び選抜期日などはすべて予定です。詳細については、文部科学省大学設置・大学法人審議会の審査結果通知後、推薦入試学生募集要項、AO入試学生募集要項及び一般入試学生募集要項等で発表する予定です。

1. 改組計画

理工学部 改組前			理工学部 改組後（平成31年度）	
数理科学科	30名	➡	理工学科	480名
物理科学科	40名		数理サイエンスコース	
知能情報システム学科	60名		知能情報システム工学コース	
機能物質化学科	90名		情報ネットワーク工学コース	
機械システム工学科	90名		生命化学コース	
電気電子工学科	90名		応用化学コース	
都市工学科	90名		物理学コース	
計	490名		機械エネルギー工学コース	
			メカニカルデザインコース	
			電気エネルギー工学コース	
			電子デバイス工学コース	
			都市基盤工学コース	
			建築環境デザインコース	

農学部 改組前			農学部 改組後（平成31年度）	
応用生物科学科	45名	➡	生物資源科学科	145名
生物環境科学科	60名		生物科学コース	
生命機能科学科	40名		食資源環境科学コース	
計	145名		生命機能科学コース	
			国際・地域マネジメントコース	

2. 改組後のコースの選択

理工学部ではこれまでの7学科を理工学科1学科とし、12の専門コースを設けます。理工学部全体を1学科にすることで、学生の皆さんは1年次には共通の専門科目により理工学部の基礎を確実に身につけると同時に、社会から求められている情報関連技術や倫理・知財などの重要科目を学修基盤として学ぶことができるようになります。また、1年次後学期に3つのコース類に配属、2年次からは12のコースに配属という段階的に専門を絞っていく仕組みにより、大学での学びを通して自身の適性や関心、将来の進路を見据えたコースの選択が可能になります。

農学は、農業および食料、生命、環境、情報、エネルギー、地域社会を対象とする教育研究分野が揃い、暮らしにも深く関連している総合学問です。その幅広い専門性を理解し、社会における応用力を養成するためには、まず農学全般にわたる基礎的知識の充実と基礎学力の強化が不可欠です。そこで農学部では、従来の3学科体制から1学科体制とし、1年次にしっかりと農学に関する基礎知識を身につけたうえで、2年次から4つの教育研究コースへと進んでいきます。

IV 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

教育学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

教育学部では、幼児・児童・生徒の心身の発達を長期的かつ連続的な視点から見据えながら、現代社会の変化に伴う様々な教育課題に応えることができる学校教員の養成を目的としています。そのための本学部のカリキュラムに適應するのに必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	自然科学と技術の分野、文化の分野及び現代社会の分野に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門教育科目	<ul style="list-style-type: none">●グローバル人材を育成する教員に必要な英語コミュニケーションに関する科目を学ぶため、英語に関する基本的な能力と学習力が必要です。●教育実習のように、実際の教育現場における学習活動を行うため、主体的な行動力や他者との基本的なコミュニケーション能力が必要です。●教育学の基礎的な知識・理論、各教科の教育内容やその学習指導方法、障害のある幼児・児童・生徒に対する教育、並びに幼児教育・小学校教育・中学校教育の各教育段階のあいだの円滑な接続や連携に関わる科目を学ぶために、高等学校までに学ぶ幅広い教科・科目の知識と技能が必要です。●教育のプロフェッショナルとして課題を発見し、それらを解決する能力を身につけるため、高等学校までに修得した知識・技能を活用して問題解決に繋げることができる思考力・判断力・表現力が必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

幼小連携教育コース

高等学校で履修する全ての教科・科目について、基礎的な知識を幅広く学習し、自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現することが必要です。将来、教師として活躍するためには、教職についての意欲と関心を培い、幼児教育や初等教育、特別支援教育をめぐる諸問題に対して強い関心を持つことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、将来教師になるにあたって糧となるような何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本コースの教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

小中連携教育コース

文系、理系に偏らず、高等学校で履修する全ての教科・科目について、基礎的な知識を幅広く学習し、自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現することが必要です。なお、技能が重要視される教科については、基礎的な技量をあわせて修得しておくことが求められます。将来、小学校や中学校などの教師として活躍するためには、初等教育や中等教育をめぐる諸問題に対して幅広い視野と強い関心を持ち、読書などを通して自分自身で考えておくことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、教育に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本コースの教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

各学部の教育目標・方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とし、以下のような多様な選抜方法と多面的・総合的な評価方法により入学者を選考します。

選抜方法	目的と概要
一般入試	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般入試では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「推薦入試」、「AO入試」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■幼小連携教育コース

- ① 高等学校で修得すべき幅広い知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を深く理解するために必要な数学あるいは国語に関する知識・技能と、これらを踏まえた思考力・判断力・表現力
- ④ 専門分野に関する文献や資料等の読解力と理解力及び自らの考えを論理的にまとめる表現力
- ⑤ 特別支援教育の分野に関する学習意欲
- ⑥ 教師を目指そうとする意思

入学後の学習に必要な能力や適性等		①	②	③	④	⑤	⑥
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」	
選抜方法	前期日程	センター	70	○	○	○	
		個別試験	○	15	15		
	後期日程	センター	70	○	○	○	
		個別試験	○	15		15	
	推薦入試Ⅰ	基礎学力試験	○	25			
		小論文	○			25	
		面接					25
		推薦書					25
	調査書	◎					

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABCなど）

iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

■小中連携教育コース

- ① 高等学校で修得すべき幅広い知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を深く理解するために必要な数学あるいは国語に関する知識・技能と、これらを踏まえた思考力・判断力・表現力
- ④ 専門分野に関する文献や資料等の読解力と理解力及び自らの考えを論理的にまとめる表現力
- ⑤ 英語、理数、音楽、保健体育、家庭、技術のいずれかの分野に関する高い意欲・関心と、その分野に関する特に優れた知識と技能
- ⑥ 教師を目指そうとする意思
- ⑦ 将来、佐賀県下の小学校教員としての活躍を期待できる十分な意欲と姿勢

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				3要素全て	「主体性等」	
選抜方法	前期日程	センター	70	○	○	○			
		個別試験	○	15	15				
	後期日程	センター	70	○	○	○			
		個別試験	○	15		15			
	推薦入試Ⅰ (佐賀県枠)	基礎学力試験	○	40					
		小論文	○			20			
		面接							30
		推薦書							10
		調査書	◎						
	AO入試	適性検査	○					36	
		活動実績報告書							
		小論文	○			18			
		面接						28	
		志願理由書							
		調査書	○					18	

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABCなど）

iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

芸術地域デザイン学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

芸術地域デザイン学部は、創造性や高い技能をもち、新しい芸術表現を実現できる人材、また、地域が有する問題や状況に芸術を手段として柔軟に対応し、芸術を社会に紹介したり、芸術で社会を活性化したりできる人材の養成を目的とします。各コースの教育目的、カリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等、そして入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

芸術表現コース

現代の様々な問題に主体的かつ積極的に取り組み、芸術を自ら創造・表現し、美術・工芸や有田セラミックの専門的知識を修得するとともに、芸術を多面的・総合的に学ぶことで社会の中で自らの活動をマネジメントできる能力を身につけることにより、地域創生に貢献する人材を養成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通科目	芸術表現、地域デザインの両分野で共通的に身に付けるべき知識や技能、考え方などを授業や演習、フィールドワークを通じて修得するために、高等学校までに修得すべき幅広い教科・科目の知識と技能とともに、主体的な行動力と他者との基本的なコミュニケーション能力は不可欠です。なお、芸術表現の技能や巧拙は、共通科目を履修する上で前提とはなりません。芸術表現や地域デザインの両分野に対する興味・関心を有していることは必要です。
専門科目	独自の芸術表現とそれを支える技術、芸術の歴史や素材・技法に関する知識、経営的な視点を持ち、芸術を多面的・総合的に捉える能力を修得するために、高等学校で習得すべき基礎的学力とともに芸術についての知識、また、自らの手による描写力、発想力など芸術表現に関わる基本的な技能が不可欠です。

卒業研究	学生各自が設定した課題を最終学年の1年間をかけて掘り下げることで、論文あるいは作品として仕上げることを求めるため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論や活動へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、制作活動等を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。
------	--

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

芸術表現コースで学ぶにあたって大きく3つの事を意識してください。1つ目は「活力」です。芸術が果たしてきた役割を学びつつ、これからの社会とどのようにつながることが出来るかを想像してください。主体的な自己が生まれ、同時に活力を生み出す事が出来ます。2つ目は「理知」です。身の回りの現実にかかる出来事に興味を持ち、気になる事に少し立ち止まりながら知識を深めてください。様々な分野の事が複雑に関係している世界の様々な兆候を見逃さない感性が育まれ、理知へと発展します。3つ目は「発信」です。自分の好きなものや気になることを誰かに積極的に伝えてください。それは活力と理知を伴って社会への発信へ変わります。これらの事を入学前から意識することで、より有意義な大学生生活が送れるはずです。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

地域デザインコース

地域資源をデザインの手法を使ってコンテンツ化し、地域創生に貢献できる人材、キュレーター(学芸員)やアートコーディネーターとして国内・海外の文化芸術振興に寄与できる人材、また、まちづくり、地域創生等のコーディネーターやリーダーとして地域社会に貢献できる人材を養成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目(英語)を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通科目	芸術表現、地域デザインの両分野で共通的に身に付けるべき知識や技能、考え方を授業や演習、フィールドワークを通じて修得するために、高等学校までに修得すべき幅広い教科・科目の知識と技能とともに、主体的な行動力と他者との基本的なコミュニケーション能力は不可欠です。なお、芸術表現の技能や巧拙は、共通科目を履修する上で前提とはなりません。芸術表現や地域デザインの両分野に対する興味・関心を有していることは必要です。
専門科目	地域デザインの理論と実践力、芸術の歴史や素材・技法に関する知識、経営的な視点から芸術を多面的・総合的に捉える能力について、授業や演習、フィールドワークを通じて修得するために、高等学校で習得すべき幅広い教科・科目の基礎的な学力とともに、地域社会が抱える問題についての基礎的な知識、様々な資料や情報を読み解くための基礎的な読解力、論理的思考力、分析力、考察力に加え、自分の考えを発信する表現力、企画力、発想力等が必要です。
卒業研究	学生各自が設定した課題を最終学年の1年間をかけて掘り下げることで、論文あるいは作品として仕上げることを求めるため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論や活動へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、制作活動等を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

地域デザインコースで問われるのは、芸術表現の技能・巧拙ではありません。地域デザインコースにおける4年間の教育課程を確実に修得するためには、高等学校で履修する教科・科目を広く学んでおくことが重要です。特に、国語、英語の基礎的な学力を有していることが求められます。これらの幅広い基礎的な学力をもとに、自分の考えを分かり易く、文章や絵、図表などを多角的に組み合わせることで口頭で表現できる企画力、発想力、表現力が必要です。将来、国内・海外の文化芸術振興、あるいはまちづくり、地域創生等に貢献できる人材となるためには、地域社会にとどまらない幅広い視野と強い関心を持つことも重要です。読書などを通して知識教養を深めるとともに、大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、地域や社会全般に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

各学部の教育目標・方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とし、以下のような多様な選抜方法と多面的・総合的な評価方法により入学者を選考します。

選抜方法	目的と概要
一般入試	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般入試では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「推薦入試」、「AO入試」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■芸術表現コース

- ① 高等学校で修得すべき基礎的な教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 芸術に関する知識および自らの手による描写力、発想力など芸術表現に関わる基本的な技能
- ③ 芸術表現を学ぶために必要な分析力、考察力、表現力および企画力を含む発想力
- ④ 芸術表現に取り組む主体性と行動力
- ⑤ 芸術表現に関する継続的な学習や自主的な芸術表現活動に向けた意欲や姿勢
- ⑥ 芸術表現の分野における優れた経験や実績

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選抜方法	前期日程	センター	50					
		個別試験		50	○			
	後期日程	センター	60					
		個別試験		40	○			
	推薦入試Ⅰ	実技検査		40	○			
		面接		(30)		○	(30)	
		ポートフォリオ 調査書 推薦書	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)
	AO入試	適性検査		○	50			
		面接		(25)		○	(25)	
		ポートフォリオ 志願理由書 調査書	(25)	(25)	(25)	(25)	(25)	(25)

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABCなど）

iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

■地域デザインコース

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力
- ④ 地域社会が抱える問題に関心があり、芸術を通じて地域社会を機能的に繋げていける企画力、発想力、表現力
- ⑤ 主体的にものごとに取り組むことができる積極的な行動力
- ⑥ 継続的に地域の文化芸術活動に参画する意欲と態度
- ⑦ 高等学校入学以降の主体的な実績・活動

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選抜方法	前期日程	センター	64						
		個別試験		36					
	後期日程	センター	67						
		個別試験		11	22				
	AO入試	適性検査	○		50				
		小論文	○		30				
		面接					20		
		志願理由書						◎	
		調査書	◎					◎	
	特色加点				☆	☆		☆	

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）
ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABCなど）
iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの
iv. ☆は、加点評価

経済学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

経済学部は、経済学・経営学・法学を柱として社会科学上の知識と教養を授け、経済や社会における課題を分析し、解決できる人材を育成することを教育の目的とします。その目的を達するためのカリキュラム編成、並びにそのために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	文化・自然、現代社会と生活だけでなく、社会科学系以外の分野に関する幅広い知識を修得するために、高等学校で履修する幅広い教科や科目の知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	大学での「学び」と現代社会との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部専門科目	経済学・経営学・法学の分野を総合的に学ぶとともに、所属学科の専門分野の知識、並びに社会や経済に関する課題を発見し、その課題に向けて専門知識を活用する能力を修得するために、高等学校で履修する国語、地歴、公民、数学、英語といった幅広い教科・科目の基礎的理解だけでなく、資料や情報を読み解く力、自分の考えを論理的に展開し表現する力が不可欠です。また、専門分野での情報収集・コミュニケーション能力を高めるための外国語科目を配置しているため、英文の資料を理解するための基本的な英語の学習力が必要です。さらに、少人数による演習を1年次から行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることも重要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

経済学科

経済や社会で生起している問題を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。様々な知識や情報をもとに自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に展開し記述する国語力も求められます。また、経済学には、数学的な思考が必要な分野も含まれます。したがって、高等学校の教科書レベルの知識を十分に習得していることが重要です。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目等の基本的な知識と技能を習得しておくことが求められます。さらに、国際性が求められる現代においては、英語を中心とした外国語だけでなく、歴史や地理などの幅広い知識が国際経済や国際政治などの理解を深めるために必要です。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に目を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を

持った学生を歓迎します。

経営学科

企業の経営や会計を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。様々な知識や情報に基づいて、自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に展開し記述する国語力も求められます。また、経営学や会計学には、高等学校の教科書レベルの数学の知識や考え方を応用する分野も含まれます。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目等の基本的な知識と技能を習得しておくことが望めます。さらに、国際性が求められる現代においては、英語を中心とする外国語だけでなく、歴史や地理などの幅広い知識が国際経済や国際ビジネスに対する理解を深めます。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に目を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

経済法学科

経済と社会の規範である法律について理解するためには、十分な国語力だけでなく、経済や社会、さらには政治についての知識が必要であり、そのためには、歴史や地理などの幅広い知識も重要なものとなります。また、国際性が求められる現代において、英語を中心とする外国語が重要であることは言うまでもありません。そのうえ、本学部では経済学や経営学も含めた幅広い学修が求められるため、高等学校の教科書レベルの数学の知識が必要となります。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に目を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことも、入学後の学修にとって有益です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

各学部の教育目標・方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とし、以下のような多様な選抜方法と多面的・総合的な評価方法により入学者を選考します。

選抜方法	目的と概要
一般入試	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般入試では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「推薦入試」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入試者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■全学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力
- ④ 志望学科に関する専門分野に関心があり、主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑤ 高等学校入学以降の主体的な実績・活動

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」			「知識・技能」「主体性等」	
選抜方法	前期日程	センター	88			
		個別試験	○	12		
	後期日程	センター	88			
		個別試験	○		12	

選抜 方法	推薦入試 I	小論文	○		100			
		面接				◎		
		志願理由書					◎	
		推薦書	○				◎	
		調査書	◎				◎	
		特色加点						☆

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）
ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABC など）
iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの
iv. ☆は、加点評価

医学部

求める学生像

医学部は、教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応えうる良き医療人を育成し、もって医学・看護学の発展並びに地域包括医療の向上に寄与することを基本理念とします。

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

医学科

医の実践において、強い生命倫理観に基づくとともに広い社会的視野の下に包括的に問題をとらえ、その解決を科学的・創造的に行うような医師を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	自然科学と技術の分野、文化の分野及び現代社会の分野に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身につけておくとともに、外国語科目(英語)を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門基礎科目	高い倫理観と豊かな人間性を育むことを目標とした総合人間学(倫理、心理、法制、福祉、生活支援など)の授業科目で構成されるため、高等学校までに修得すべき幅広い教科・科目の知識と技能が不可欠です。
基礎医学科目	医学に必要な基礎的知識と技能を学ぶ授業科目(分子細胞生物学、発生学、解剖学、生理学、生化学、微生物学、免疫学、病理学、薬理学、遺伝医学)で構成されるため、高等学校で履修する数学、理科、英語に関する基礎的理解と応用力が不可欠です。
機能・系統別 PBL 科目	疾病とそのメカニズムに関する総合的な内容を人体の機能・系統別に学習する授業科目で構成され、知識の修得とともに、自己学習の習慣を身につけ、科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として少人数グループの問題解決型学習方式で実施するため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることが必要です。
臨床実習	医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下、医学の知識・技術ならびに医師としての実践能力を修得するとともに、地域社会における医療の意義を理解し、医師の責務への自覚を培うキャリア教育の場として、またチーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として実施する実習科目であるため、学んだことを実践に生かす能力や姿勢とともに、協調性やコミュニケーションを通じてチーム医療の一員として学習できる態度、姿勢および行動力を持っていることが必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

医学は、生命科学を中心に自然科学のあらゆる分野が密接に関連しているとともに、人間を対象とする人文・社会科学的要素が深く関わっています。そのため、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を充分理解し、それに基づく論理的な思考ができるようにしておく必要があります。さらに、大学の学習で用いる参考書等の理解、レポートの作成、グループ討論や発表に必要な国語力、英語力およびコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。また、医学への志を確かなものにするために、医学・医療をとりまく社会に目を向け、読書やボラ

ンティア活動、医療関連に携わる先輩との交流などの取組みを通じて、自身の将来像を自ら考える積極的な姿勢が望めます。

上記のことに加え、自らの学習活動や取組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

看護学科

高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門基礎科目	看護学に必要な基礎的な知識として人体の構造と機能及び病態・疾病と治療を学ぶ授業科目と、関連領域の基礎的理解（看護倫理、栄養学）や専門的な技能を学ぶ授業科目（看護英語、キャリアデザイン、看護研究入門など）で構成されるため、高等学校で履修する数学、理科に関する基礎的理解と応用力に加え、他の教科・科目に関する幅広い知識と技能が不可欠です。
看護専門科目	看護についての専門的な知識・技能に関する総合的な内容を系統的に学修する授業科目で構成し、知識の修得とともに、自己学習の習慣を身につけ、科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として実践演習型学習や少人数グループ学習を取り入れ実施するため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることが不可欠です。
臨地実習	看護学の知識・技術ならびに看護職者としての実践能力を修得するとともに、地域社会に要請されている医療における看護の意義を理解し、看護職者の責務への自覚を培うキャリア教育の場として、チーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として、医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下に実施するため、学んだことを実践に生かす能力や姿勢とともに、協調性やコミュニケーションを通じてチーム医療の一員として学習できる態度、姿勢および行動力を持っていることが必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み〉

看護学は、健康な人から病をもつ人まで様々な健康レベルの人々を対象とした実践科学です。人間は身体的・精神的・社会的存在で、環境と相互作用しながら健康を維持しています。健康には、自然・人文・社会科学的要素が深く関わっているため、看護学の学習のためには、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。看護実践の基礎となる、看護の知識と専門的技術の修得には、特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を理解し、論理的な思考ができるようにしておく必要があります。また、看護は人間関係を通して実施されるため、文章による意思の疎通に必要な国語力や自己・他者間の理解を共有するためのコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。大学での学習は、看護の生涯学習の基盤となるため、国内外の社会に目を向け、読書やボランティア活動などの自己啓発の取組みを通じて、自ら考える積極的な姿勢が望めます。

入学者選抜の基本方針

各学部の教育目標・方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とし、以下のような多様な選抜方法と多面的・総合的な評価方法により入学者を選考します。

選抜方法	目的と概要
一般入試	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般入試では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「推薦入試」、「帰国子女」、「社会人」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■医学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学、理科に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
- ③ 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ④ 資料等の理解力、科学的かつ論理的な思考力及び医療人としての人間性
- ⑤ 医学への志を持ち、医学・医療により社会に貢献しようという意欲と態度
- ⑥ 生命や医療に対する倫理観、コミュニケーション能力、チーム医療の一員となる上で不可欠な協調性
- ⑦ 医学・医療について学ぼうとする意欲や物事に積極的に取り組む態度
- ⑧ 佐賀県、長崎県の医療活動に貢献したいという強い意思

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」				
選抜方法	前期日程	センター	61	○	○					
		個別試験	23	○	○					
		面接				○	6			
		調査書	10	○	○		○			
	後期日程	センター	69	○	○					
		面接				○	20			
		調査書	11	○	○		○			
		自己推薦書					○			
	推薦入試Ⅱ	センター	58	○	○					
		小論文	○		○	10				
		面接				○	10			
		調査書・推薦書	22	○	○		○			
		自己推薦書					○			
		志願理由書 (佐賀県枠・ 長崎県枠のみ)							○	
	佐賀県推薦	センター	58	○	○					
		小論文	○		○	10				
		面接				○	11			
		推薦書					○			
調査書		21	○	○		○				
帰国子女	学力検査	67	○	○						
	面接				○	33				
	提出書類	○	○	○		○				

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

■看護学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、専門分野を理解するために必要な基本的な思考力・判断力・表現力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 資料等の理解力、科学的かつ論理的な思考力及び医療人としての人間性
- ④ 人間に関心を持ち、人々の健康と福祉に貢献しようという意欲と態度
- ⑤ 生命や医療に対する倫理観、コミュニケーション能力、チーム医療の一員となる上で不可欠な協調性
- ⑥ 看護学・医療について学ぼうとする意欲や物事に積極的に取り組む態度
- ⑦ 看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指す意思

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選抜方法	前期日程	センター	71	○				
		小論文	11		○			
		面接			○		7	
		調査書	11	○			○	
	後期日程	センター	68	○				
		面接			○		21	
		調査書	11	○			○	
		自己推薦書					○	
	推薦入試Ⅰ	小論文	○	○	40			
		面接					30	
		調査書・推薦書	30				○	
		自己推薦書					○	
	社会人	小論文	○	○	77			
		面接			○		23	

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）
ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

理工学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

理工学部は、幅広い教養と理工学基礎力を土台として、多面的視点をもって社会の広い分野で活躍できる科学・技術の専門的素養を持つ人材を育成することを目的とします。これを実現するために1学科12コースの教育体制を取り、1年次は共通の講義で基礎学力を整え、2年次のコース配属によりそれぞれの希望する専門に分かれて教育を受けます。以下に、理工学科のカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みを示します。

理工学科

理工学科では、基礎科目から専門科目までを段階的に学んでいくことで、理工系の学問領域の幅広い基礎的知識と各学問分野での専門知識を身につけ、複眼的視点を持って広く社会で活躍できる人材を育成することを目的としています。そのため専門教育は、基礎学力や理工系分野のリテラシーを修得するための学部共通科目と各専門のコースで個別に開講される専門科目に大別されます。教養教育も含めたカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグルー学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通基礎科目	理工系人材に要求される基本的なリテラシーを修得するために、基本的な知識に加えて倫理観や自立した責任感ある行動力が求められます。またPBL学習を通して課題解決能力や複眼的視点を修得するために、共同して学ぶ姿勢や主体的な学習態度が必要です。
学部共通専門科目	理工学部としての共通の基礎学力を修得するために、高等学校で履修する数学、物理、化学を中心とした理数系科目に関する基本的理解と、理学や工学の分野に対する興味・関心を有していることが必要です。

コース類共通専門科目	専門のコースに分かれる準備段階として、各専門分野の特性に合わせた専門知識を修得するために、高等学校で履修する数学、物理、化学を中心とした理数系科目に関する基本的理解と、理学や工学の分野に対する興味・関心を有していることが必要です。
専門科目（コース別）	コース別の専門科目カリキュラム編成等を参照
卒業研究（コース別）	コース別の専門科目カリキュラム編成等を参照

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

理工学分野で学習する概念や法則、その応用や技術革新を理解するためには、まず理工学分野の基礎となる数学・物理・化学を土台とした基礎学力、そしてこれらを専門分野において活用できる能力が求められます。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ数学・理科については教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

各コース別の専門教育のカリキュラム編成と同カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

数理サイエンスコース（数理分野）

数理サイエンスコースでは、数学を中心とする理学の領域で専門的知識を身につけ、広く社会で活躍できる人材を育成します。そのための専門教育のカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目（必修）	数学の基本的な考え方及び論理的厳密性を修得するために、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。
専門科目（選択）	数学の思考力、表現力および数学の各分野における論理を理解するために、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、社会の中で直面する諸問題を正確に理解し対処する力を修得することになりますので、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

数学の概念や論理的厳密性を修得するためには、微分積分、線形代数、集合・位相といった数学の基本的な考え方や手法を身につけることが必要です。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ理科についても教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。

知能情報システム工学コース・情報ネットワーク工学コース（情報分野）

情報分野を構成する知能情報システム工学コースと情報ネットワーク工学コースでは、知能情報システム工学または情報ネットワーク工学における専門知識・能力及び広い視野と判断力を持ち、他者と協力して、この社会（地域社会・国際社会・産業界等）で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (知能情報システム工学コース)	知能情報システム工学分野の基礎的な知識と技能を修得するために、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、情報技術分野のプロフェッショナルとして問題を発見・解決する能力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (情報ネットワーク工学コース)	情報ネットワーク工学分野の基礎的な知識と技能を修得するために、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、ネットワーク技術分野のプロフェッショナルとして問題を発見・解決する能力と実践力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、原則として学生それぞれが個別の研究テーマを担当し、研究計画の立案から実施・発表会での結果報告・卒業論文を一貫して行うことで、専門学修の総仕上げとします。そのため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

情報分野では、社会の第一線で活躍できるように、知能情報システム工学や情報ネットワーク工学に関連した様々な専門科目を学びます。また、文書作成、口頭発表、技術英語を修得するとともに、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力なども育成します。そのためには、入学時点で、数学、理科（物理や化学）などの理数系科目の基礎学力をしっかりと身につけていることが必要です。また、国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。課題発見・解決能力を養うためには、必要な基本的な思考力・判断力・表現力も重要です。そして、常日頃から情報工学に関する出来事に興味を持ち、これらの分野へ取り組む意欲も欠かせません。高校等での学習においては、教科書レベルの問題を解く能力を求めます。また、情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得し、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解し、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を身に付けることも必要です。そして、男女を問わず、高い学習意欲を持ち、知識の獲得に積極的な学生の入学を望みます。

生命科学コース・応用化学コース（化学分野）

化学分野を構成する生命科学コースと応用化学コースでは、化学を通して継続的に社会に貢献することのできる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (生命科学コース)	生命科学・分子生物学の知識を体系的に身に付けていくために、生命科学分野を主たる内容とした専門科目の講義を、無機化学、有機化学・生命科学、物理化学、分析化学、化学工学の5つの分野で構成・配置し、理解と実践力を修得します。したがって、高等学校で履修する化学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、生命科学分野のプロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力、および課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (応用化学コース)	物質化学・材料化学分野の知識を体系的に身に付けていくために、材料化学への応用を主な内容とした専門科目の講義を、無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学工学の5つの分野で構成・配置し、理解と実践力を修得します。したがって、高等学校で履修する化学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、材料化学分野のプロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力、および課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、各コースの指導教員の下、総合的な学習を通して自ら仕事を計画・遂行していく能力を身に付けるために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

化学は、さまざまな物質や材料の構造や機能の関係性を明らかにするために、それらを詳細に調べ、新しい物質の合成や分析を行います。そのため、既存物質の特性を正確に把握し、必要な仮説と検証実験、そして得られた結果の論理的説明が求められます。このように化学を専門的に学ぶためには、高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また、実験

等で取得したデータ解析には、計算能力や数学的思考力が求められ、物質の物理的性質や生化学的性質を理解するためには物理学や生物学の知識が必要となります。したがって、高等学校で学習する数学、物理および生物の基礎学力は、化学を専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに、新しい知識や技術を身につけるためには、外国の文献等にも目を通す必要があり、基礎的な英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

物理学コース（物理学分野）

物理学コースでは、物理学を中心とする理学の領域で専門的知識を身につけ、広く社会で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目（必修）	物理学の基本的な考え方及び論理的厳密性を修得するために、高等学校で履修する物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。実験・演習等の授業では、グループ学習や実験に関わる作業が中心となるため、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が求められます。
専門科目（選択）	物理学の思考力、表現力および数学の各分野における論理を理解するために、高等学校で履修する物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。実験・演習等の授業では、グループ学習や実験に関わる作業が中心となるため、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が求められます。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、社会の中で直面する諸問題を正確に理解し対処する力を修得することになりますので、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

物理学における基本的な概念や法則を理解するためには、高等学校で履修する物理と数学の基本的事項の理解および計算能力だけでなく、それらの知識に基づく論理的な思考力が求められます。また、実験や観測を通して法則を見出すための洞察力も必要です。さらに、専門的な知識や考え方を修得するためには、海外の文献にも目を通すことが必要であり、高等学校の教科書レベルの英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

機械エネルギー工学コース・メカニカルデザインコース（機械工学分野）

機械工学分野を構成する機械エネルギー工学コースとメカニカルデザインコースでは、機械工学に関する領域において、専門的な基礎知識及びその応用力並びにものづくりの素養を身に付けた技術者となる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (機械エネルギー工学コース)	エネルギー工学に関する基礎的知識、技能を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、エネルギー工学の観点からのものづくりを実際に行うための機械設計、製図を通し、課題を発見・探求・解決する力を身につけるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (メカニカルデザインコース)	システム工学に関する基礎的知識、技能を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、企業等が生産現場で抱える課題やニーズに対応するための課題発見、解決能力を修得するために、演習や実験などを含む体験型学習を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、各コースの指導教員の下、総合的な学習を通して実社会における諸問題の発見・解決能力を習得するために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

機械工学は、すべてのものづくりに欠かせない技術であり、今後も重要となる産業界の諸問題の基となる学問です。それを修得するためには、高等学校で学ぶ数学、物理、化学の基本的事項を理解し、教科書レベルの基本問題を解く能力を十分身につけておく必要があります。また、機械工学に関する講義の理解、レポート作成、プレゼンテーションにおいて、読解力や記述力などの国語能力、世界情勢や歴史、文化など社会科で学ぶ一般的な知識も求められます。さらに様々な分野で将来的に活躍するためには、英文の読解や作成、コミュニケーションなど基礎的な英語力は欠かせないものです。機械工学によるものづくりを通じた社会への貢献に興味と熱意を持つことを期待します。

電気エネルギー工学コース・電子デバイス工学コース（電気電子工学分野）

電気エネルギー工学コースと電子デバイス工学コースでは、電気電子工学の専門知識・能力と広い視野と判断力を持ち、他者と協力して、地域社会・国際社会・産業界等で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムの適応に必要な能力や適性、さらに入学志願者に高等学校等での学習で取り組んでいただきたい内容を下記に示します。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (電気エネルギー工学コース)	電気エネルギー工学コースでは、電磁気学、電気回路、電子回路などの電気電子工学の基礎的な専門知識と電気エネルギーの発生、変換、利用などについて学修します。それらの基礎的な知識と技術を修得するために、数学と物理の理解力と応用力が必要です。また、電気電子工学実験では、PDCA（Plan→Do→Check→Action）サイクルの実践的な能力を修得し、チーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (電子デバイス工学コース)	電子デバイス工学コースでは、電磁気学、電気回路、電子回路などの電気電子工学の基礎的な専門知識と半導体の物性、電子デバイスの原理、電子工学への応用などについて学修します。それらの基礎的な知識と技術を修得するために、数学と物理の理解力と応用力が必要です。また、電気電子工学実験では、PDCA（Plan→Do→Check→Action）サイクルの実践的な能力を修得し、チーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、原則として学生それぞれが個別の研究テーマを担当し、研究計画の立案から実施・発表会での結果報告・卒業論文を一貫して行い、専門学修の総仕上げとします。そのためには、3年次までの教育課程の内容を十分に学修できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、積極的に学習・研究活動を進めていく能力や姿勢を持つことは必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

電気電子工学分野では、社会の第一線で活躍できるように、電気電子工学に関連した様々な専門科目を学びます。また、文書作成、口頭発表、技術英語を修得するとともに、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力なども育成します。そのためには、入学時点で、数学、理科（物理や化学）などの理数系科目の基礎学力をしっかりと身につけていることが必要で、教科書レベルの知識を有していることを求めます。また、国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。課題発見・解決能力を養うために必要な基本的思考力・判断力・表現力も重要です。そして、常日頃から電気電子工学に関する出来事に興味を持ち、これらの分野へ取り組む意欲も欠かせません。

都市基盤工学コース・建築環境デザインコース（都市工学分野）

都市工学分野を構成する都市基盤工学コースと建築環境デザインコースでは、都市工学の領域における専門的知識・技能を身に付け、都市・地域の持続的発展に貢献できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (都市基盤工学コース)	社会基盤工学に関する基礎的知識、分析力、考察力だけでなく、安全・安心な都市・地域の環境基盤整備や都市・地域の環境基盤をより一層豊かにするための高度な知識・技能を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、社会基盤工学分野のプロフェッショナルとして課題発見能力および課題解決能力を身に付けるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (建築環境デザインコース)	建築都市デザインに関する基礎的知識、分析力、考察力だけでなく、身の回りの居住環境・建築環境の快適性を最適に保つための知識・技能、現代社会に対応した建築・都市空間を計画・設計する能力を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、歴史や文化・伝統などに関する専門的観点から多様な価値観を理解する力、都市・地域の持続的発展に向けた建築・都市空間のあり方を提示する力を身に付ける必要がありますので、高等学校で履修する国語、地理、歴史といった幅広い教科や科目の基礎的理解が必要です。さらに、建築都市デザイン分野のプロフェッショナルとして課題発見能力および課題解決能力を身に付けるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、各コースの指導教員の下、総合的な学習を通して実社会における諸問題の発見・解決能力を習得するために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

都市における社会基盤・建築物等の整備と安全・安心の確保は非常に重要ですが、同時に自然環境や歴史、風土等との調和も必要です。都市工学分野では、都市や地域に関する理解、形態や空間を扱うデザインも学問対象としていますので、様々な社会的現象および文化や歴史についても関心を持つことが求められます。したがって、高校で学ぶ数学・物理など自然科学の基礎力、論理的思考を支える国語力、英語で書かれた文献の理解のための英語力、さらに地域の文化や歴史に目を向け得るための社会的な基礎知識などを学習することを期待します。

入学者選抜の基本方針

選抜方法	目的と概要
一般入試	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般入試では評価が難しい多様な能力や資質を有し、志望分野への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「推薦入試」、「AO入試」、「帰国子女」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。
3年次編入学試験	短期大学、専修学校及び高等学校の専攻科の課程の卒業生で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学、理科に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
- ③ 専門科目と特に関係の深い教科・科目に関する十分な知識・技能と、これらを踏まえた高度な思考力・判断力・表現力
- ④ 志望分野で学ぶために必要な基礎的な知識・技能
- ⑤ 専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑥ 本学部で学びたいという強い意欲
- ⑦ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選抜方法	前期日程	センター	60	○	○	○			
		個別試験	○	40	○	○			
		特色加点					☆		☆
	後期日程	センター	60	○	○	○			
		個別試験	○	○	40	○			
		特色加点					☆		☆
	推薦入試Ⅰ (専門系 高校対象)	基礎学力・学習力テスト				◎			
		小論文				◎			
		面接				○	◎	◎	◎
		活動実績報告書					◎		◎
		推薦書	○				○	○	○
	AO入試Ⅰ (全科対象)	調査書	○				○		○
		適性検査	○	◎					
		面接	○			○	◎	○	
		活動実績報告書					◎		◎
		志望理由書					○	◎	○
	AO入試Ⅱ (全科対象)	調査書	○				○		○
		センター	91	○	○	○			
		志望理由書						(9)	
		活動実績報告書					(9)		(9)
帰国子女	調査書	○				(9)		(9)	
	小論文	○	○			◎			
	面接		○			◎	◎		
		◎							
	提出書類	◎							

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）
ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（可否、ABCなど）
iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの
iv. ☆は、加点評価

農学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

農学部では、農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる深い専門性と幅広い素養を身に付け、国内外での農業及び関連産業の発展に貢献する人材を養成することを目的とします。農学部のカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	文化・自然、現代社会と生活に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門教育科目	農学分野の基礎的な知識・技術とともに、課題発見と解決能力を修得するために、高等学校で履修する理科、数学を中心とした基礎的理解と応用力に加え、資料や情報を読み解くための国語力と英語力、その他幅広い教科・科目に関する知識を有することが不可欠です。また、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
卒業研究	高学年次での各研究室における卒業研究では、専門的な研究環境で専門知識と先端技術を修得することになります。そのため、低学年次における教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

生物資源科学科

農業に関わる学問に対する興味があり、生物の機能や自然環境について学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。講義を理解してレポート等を作成・発表するためには、様々な文章を読む・文書を作成するという国語力、社会の仕組みや地理・歴史といった一般常識も必要です。専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があることから、専門についての英語を学習する為に高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。

農学において、実験や調査活動を自主的・継続的かつグローバルに行なうことは重要です。そのためには自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持ち、教員、先輩、友人、留学生など周囲の人々とコミュニケーションを持つ積極性が大事です。自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ意志」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

各学部の教育目標・方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とし、以下のような多様な選抜方法と多面的・総合的な評価方法により入学者を選考します。

選抜方法	目的と概要
一般入試	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般入試では評価が難しい多様な能力や資質を有し、志望コースへの志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「推薦入試」、「AO入試」、「帰国子女」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。
3年次編入学試験	短期大学、専修学校及び高等学校の専攻科の課程の卒業生で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

生物資源科学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的な思考力・判断力・表現力
- ③ 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ④ 志望コースで学ぶために必要な基礎的な知識・技能
- ⑤ 専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑥ 本学部で学びたいという強い意欲
- ⑦ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

全コース共通

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選抜方法	前期日程	センター	60	○	○	○		
		個別試験	○	20	20	○		
		特色加点					☆	☆
	後期日程	センター	73	○	○	○		
		個別試験	○	27		○		
		特色加点					☆	☆

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

iii. ☆は、加点評価

生物科学コース

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」			
選抜方法	推薦入試Ⅰ (専門系 高校対象)	基礎学力・学習力テスト			40				
		小論文			20				
		面接					20		
		活動実績報告書					20		
		推薦書					20		
		調査書	(20)						
	AO入試Ⅱ (全科対象)	センター	82						
		志望理由書						(18)	
		活動実績報告書							(18)
		調査書	(18)				(18)		(18)

数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

食資源環境科学コース

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」			
選抜方法	推薦入試Ⅰ (専門系 高校対象)	基礎学力・学習力テスト			17				
		小論文			33				
		面接					33		
		活動実績報告書					17		
		推薦書					17		
		調査書	(17)						
	AO入試Ⅱ (全科対象)	センター	83						
		志望理由書						(17)	
		活動実績報告書							(17)
		調査書	(17)				(17)		(17)

数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

生命機能科学コース

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」			
選抜方法	推薦入試Ⅰ (専門系 高校対象)	基礎学力・学習力テスト			8				
		小論文			33				
		面接					33		
		活動実績報告書					25		
		推薦書					25		
		調査書	(25)						
	AO入試Ⅱ (全科対象)	センター	84						
		志望理由書						(16)	
		活動実績報告書							(16)
		調査書	(16)				(16)		(16)

数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

国際・地域マネジメントコース

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」			
選抜方法	AO入試Ⅰ (全科対象)	適性検査			40				
		面接					30		
		志望理由書						(30)	
		活動実績報告書							(30)
		調査書	(30)				(30)		(30)

数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

V 募集人員

募集人員等 学部、学科・課程等名			入学 定員	募 集 人 員									備 考
				一般入試		特 別 入 試							
				前期 日程	後期 日程	推薦入試Ⅰ (大学入試セ ンター試験 を課さない)	推薦入試Ⅱ (大学入試 センター試験 を課す)	AO入試Ⅰ (大学入試セ ンター試験 を課さない)	AO入試Ⅱ (大学入試 センター試験 を課す)	佐賀県 推薦入学	帰国 子女	社会人	
教育学部	学校教育課程	幼小連携教育コース	25	15	5	-	-	-	-	-	-	○初等教育主免専攻の推薦入試における募集人員5人は、佐賀県枠で募集します。 ○幼小連携教育コース(推薦入試は除きます。)は、入学後それぞれの専攻に分かれます。	
		特別支援教育専攻				5	-	-	-	-	-		
	小中連携教育コース	初等教育主免専攻	70	43	12	5	-	10	-	-	-		
		中等教育主免専攻	25	12	5	-	-	8	-	-	-		
小 計			120	70	22	10	-	18	-	-	-		
芸術地域デザイン学部	芸術表現コース	美術・工芸分野	55	30	10	-	-	5	-	-	-	○芸術表現コース(一般入試)及び地域デザインコースは、入学して1年後にそれぞれの分野に分かれます。 ○芸術表現コース(特別入試)は、入学して1年後に出願時に選択した分野に分かれます。	
		有田セラミック分野				5	-	-	-	-			
	地域デザインコース	地域コンテンツデザイン分野	55	25	15	-	-	15	-	-	-		
		キュレーション分野				-	-	-	-	-			
小 計			110	55	25	5	-	25	-	-	-		
経済学部	経済学科	110	70	20	20	-	-	-	-	-	-	○一般入試は、3学科の中から順位を付けて第3志望まで志望できます。	
	経営学科	80	30	20	30	-	-	-	-	-	-		
	経済法学科	70	35	25	10	-	-	-	-	-	-		
	小 計			260	135	65	60	-	-	-	-		-
医学部	医学科	106	50	10	-	*44	-	-	-	2	若干人	○医学科の推薦入試における募集人員44人は、一般枠20人、佐賀県枠23人、長崎県枠1人とします。 ○看護学科の推薦入試における募集人員20人には、専門系の科及び総合学科からの募集を含みます。	
	看護学科	60	35	5	20	-	-	-	-	-	若干人		
	小 計			166	85	15	20	44	-	-	2		-
理工学部	数理サイエンスコース	480	269	90	-	-	5	2	-	-	-	○入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。ただし、特別入試で生命化学コース又は応用化学コースを希望した者は、入学時点で各コースに配属されます。	
	知能情報システム工学コース				2	8	7	-	-	-			
	情報ネットワーク工学コース				-	-	-	-	-	-			
	生命化学コース				2	5	15	-	-	-			
	応用化学コース				-	7	3	-	-	-			
	物理学コース				-	-	-	-	-	-			
	機械エネルギー工学コース				4	10	10	-	-	-			
	メカニカルデザインコース				-	-	-	-	-	-			
	電気エネルギー工学コース				4	5	12	-	-	-			
	電子デバイス工学コース				4	4	12	-	-	-			
小 計			480	269	90	16	44	61	-	-	-		
農学部	生物科学コース	145	74	32	3	-	-	10	-	-	-	○生物資源科学科(推薦入試、AO入試は除きます。)は入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。	
	食資源環境科学コース				2	-	-	8	-	-			
	生命機能科学コース				1	-	-	10	-	-			
	国際・地域マネジメントコース				-	5	-	-	-	-			
小 計			145	74	32	6	5	28	-	-	-		
合 計			1,281	688	249	117	44	92	89	2	-	-	

(備考) 推薦入試Ⅰ、佐賀県推薦入学特別入試及び教育学部のAO入試の合格者(入学手続者)が募集人員に満たなかった場合は、一般入試の前期日程の合格者で補充します。また、推薦入試Ⅱについては、一般入試の後期日程の合格者で補充します。AO入試の芸術地域デザイン学部、理工学部、農学部については、一般入試の合格者で補充します。

後期日程の募集人員には、帰国子女特別入試及び社会人特別入試の募集人員(若干人)を含みます。

* 医学科の推薦入試Ⅱ佐賀県枠には「佐賀県医師修学資金」が貸与される5人が含まれ、長崎県枠には「長崎県医学修学資金」が貸与されます。なお、詳細は推薦入試募集要項に掲載します。

VI 出願資格

本学へ出願できる者は、次のいずれかに該当する者としてします。

1 一般入試

- ① 高等学校若しくは中等教育学校（以下「高等学校」といいます。）を卒業した者及び平成31年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月修了見込みの者
- ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成31年3月31日までにこれに該当する見込みの者

（注）同条第7号により出願を希望する者は、事前に入学資格認定の審査を行います。

※申請期間及び申請書類の送付先等

本学の個別の入学資格審査により、入学資格の認定を受けようとする者は、平成30年8月24日(金)までに申請するものとします。

ただし、他大学において入学資格の認定を受け、平成31年度大学入試センター試験に出願し、受理された者については、平成31年1月16日(水)までに申請するものとします。

申請書類を郵送する場合は、必ず書留郵便とし封筒表面に「大学入学資格認定書交付申請」と朱書し、本学入試課に送付してください。

〈参考〉学校教育法施行規則第150条第7号

大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

※上記出願資格以外に、平成31年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目（25、26ページ参照）のうち一つでも受験しなかった者は、失格となりますので注意してください。

2 特別入試及び私費外国人留学生入試

33ページから51ページを参照してください。

VII 選抜方法

入学者の選抜は、一般入試及び特別入試並びに私費外国人留学生入試により行います。

本学では、大学入試センター試験の過年度成績は利用しません。

一般入試

- (1) 大学入試センター試験及び個別学力検査等の成績、調査書の内容を総合的に判断し、合格者を決定します。

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目及び個別学力検査等の教科・科目等は、25、26ページを参照してください。

医学部医学科においては、入学志願者が、募集人員を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合（前期日程は募集人員の約5倍、後期日程は約10倍）に、2段階選抜を実施します。

- (2) 本学が課す大学入試センター試験の受験を要する教科・科目と個別学力検査等の教科・科目等のうち一つでも受験しなかった者は、失格とします。
- (3) 採点・評価基準、合否判定基準は、募集要項に掲載します。
- (4) 入学手続締切後、入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、原則として追加合格者を決定し補充することとしますが、欠員補充第2次募集を行うこともあります。

特別入試及び私費外国人留学生入試

33ページから51ページを参照してください。

日程	学科・課程等	個別試験																特色加点	配点比率	備考					
		外国語				国語		数学					理科				満点				教科数				
		コミュニケーション英Ⅰ	コミュニケーション英Ⅱ	コミュニケーション英Ⅲ	英語表現Ⅰ	英語表現Ⅱ	国語総合	国語表現	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学A	数学B	物理基礎	化学基礎	生物基礎						地学基礎			
前期	幼小連携教育コース	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△							400	2	9:4				
	小中連携教育コース	初等教育主免専攻		◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	△	△							400	2	9:4			
		理科学科2科目型		◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	△	△							400	2	9:4			
		中等教育主免専攻		◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	△	△							400	2	9:4			
		理科学科2科目型		◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	△	△							400	2	9:4			
	芸術表現コース	3科目型																◎	500		5:5	実技試験は描写表現(29ページ)			
		4科目型																◎	400		6:4	実技試験は発想表現(29ページ)			
	地域デザインコース																◎	400		7:4	総合問題の内容は29ページ				
	経済学科 経営学科 経済法学科		◎	◎	◎	◎													100	1	7:1				
	医学科		◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				◎	◎	400	3	63:40		
	看護学科																		◎	◎	260		65:26		
	理工学科								◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	600	2	□ 30	特色加点はインターネット出願登録時にweb上で登録 特色加点の申請は任意	
	生物資源科学科		◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎								400	2	□ 50	特色加点はインターネット出願登録時にweb上で登録 特色加点の申請は任意	
	後期	学校教育課程 幼小連携教育コース	◎	◎	◎	◎													◎		400	1		10:4	
		学校教育課程 小中連携教育コース 初等教育主免専攻	◎	◎	◎	◎														◎		400	1		10:4
学校教育課程 小中連携教育コース 中等教育主免専攻		◎	◎	◎	◎														◎		400	1		10:4	
芸術地域デザイン学科 芸術表現コース																			◎		300			5:3	実技は描写・発想表現から1(29ページ)
芸術地域デザイン学科 地域デザインコース		◎	◎	◎	◎															◎	300	1		6:3	その他は問題解決・提案力テスト(29ページ)
経済学科 経営学科 経済法学科																			◎		100			7:1	
医学科																			◎	◎	180	100		63:28	出願後に自己推薦書を提出
看護学科																			◎	◎	180	100		59:28	出願後に自己推薦書を提出
理工学科								△	△	△	△	△	△	△	△						400	1	□ 30	特色加点はインターネット出願登録時にweb上で登録 特色加点の申請は任意	
生物資源科学科								◎	◎	◎	◎	◎									200	1	□ 50	特色加点はインターネット出願登録時にweb上で登録 特色加点の申請は任意	

2 英語外部検定試験の一般入試での利用について

積極的に英語の技能を活用し、主体的に考えを表現することができる学生を求めるとともに、英語のコミュニケーション能力を適切に評価するため、英語外部検定試験の結果を一般入試（前期日程及び後期日程）に利用できます。

(1) 利用できる検定試験（4技能受験必須）

- ・ 実用英語技能検定（CSE2.0）
- ・ TEAP（4技能）
- ・ GTEC（4技能）
- ・ GTEC CBT
- ・ TOEFL iBT

(2) 利用方法

- ・ 検定試験の成績を換算表に基づき、大学入試センター試験（英語）の得点に換算し、大学入試センター試験の成績とみなして合否判定に利用します。
- ・ 検定試験の換算点が、大学入試センター試験の得点より高い場合に、検定試験の換算点を採用します。

(3) 換算表

実用英語技能検定 (CSE2.0)	TEAP (4技能)	GTEC (4技能)	GTEC CBT	TOEFL iBT		センター試験得点率
2,200以上	270以上	1,140以上	1,100以上	61以上	⇒	90%
2,100-2,199	235-269	1,080-1,139	1,030-1,099	52-60	⇒	80%
2,000-2,099	220-234	1,010-1,079	950-1,029	45-51	⇒	70%

(4) 申請方法

- ・ インターネット出願登録時に検定試験の種別及び個人番号（ID）等を登録してください。実用英語技能検定申請時の入力例：「2018(受験年度)」,「1(受験回)」,「2000001(個人番号)」
入力がない場合や間違った情報を登録した場合、登録した検定試験は利用できない場合があります。
- ・ 受験した検定試験の成績証明書等（写し可とするが、TOEFL iBT は原本のみ）を出願書類送付用封筒に同封してください。
- ・ 申請できる検定試験の成績は1件です。また、有効期限は、平成29年4月1日以降に受験した検定試験に限ります。
- ・ 成績証明書等が出願期間内に届かなかった場合は、登録した検定試験は利用できません。

(5) 大学入試センター試験の受験について

- ・ 英語外部試験の利用を申請した場合においても、大学入試センター試験の英語（リスニングを含む）を受験しなかった場合は失格となります。

3 特色加点制度について（一般入試）

「特色加点」とは、志願者の積極的なアピールと高等学校入学以降の主体的な活動を喚起することを目的とした佐賀大学の新しい制度です。センター試験、個別試験などの合計点(以下、「当初配点」という。)とは別に、書類審査として加点枠を設けます。

特色加点は、志願者が取り組んできた様々な活動や実績を踏まえた申請内容を評価の対象とします。申請された活動・実績の概要や取り組み状況、志望分野との関連性、入学後に期待できる主体的な学習行動や活動、根拠資料の内容等について、アドミッション・ポリシーの観点から評価します。志願者の申請を原則とし、申請がなければ当初配点のみで合否判定を行います。各学部の評価の考え方は、以下の通りです。

【理工学部・農学部】（前期・後期）

申請する活動・実績は、高等学校入学以降に取り組んだ主体的な活動や実績であれば何でも構いません。志望学部の学びを理解し、入学後に何を生かせるかなどをしっかりと考えた上で積極的にアピールしてください。申請内容を補完する根拠となる資料等も重要です。アドミッション・ポリシーで示す「専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」について総合的に評価します。活動・実績の具体例として、研究活動（探究型学習、課題研究、各種教育プログラムなど）、課外活動（部活動や生徒会活動など）、社会活動（ボランティア、地域活動など）、資格・検定取得、コンテスト等の実績、海外留学経験、その他主体的な活動などが考えられます。

4 理工学部と農学部の特色加点（一般入試）及び活動実績報告書（AO入試Ⅱ）の申請・提出方法

- (1) 一般入試での特色加点（任意）の申請
- (2) AO入試Ⅱでの活動実績報告書（必須）の提出

上記申請等は、紙媒体での郵送ではなく、インターネット出願登録時に Web 上で登録を行います。

詳細については各募集要項へ掲載しますので、該当する方は必ずご確認ください。

5 理工学部と農学部的一般入試（前期・後期）における合否判定について

一般入試（前期・後期）は、センター試験及び個別学力検査（個別試験）の成績、並びに「特色加点」により合格者を決定します。合否判定は以下の手順で実施します。

- (1) センター試験得点と個別試験得点を合計した成績上位者において、「特色加点」の配点により合格の可能性が生じる受験者までを「1次選考適格者」とします。
- (2) 「2次選考」は、1次選考適格者に対し、センター試験得点と個別試験得点の合計点に、「特色加点」内容の採点結果を加えた総合計点にて合否判定を行います。その際、「特色加点」分を加えなくても合格基準点を上回る受験者に対しては「2次選考」を免除し、合格者として扱います。
- (3) 「特色加点」を申請しなかった場合は、「特色加点」分は0点として扱います。

※合否結果の通知は最終結果のみとし、1次選考・2次選考別には行いません。

※「特色加点」として申請できる取組みの年限は、高等学校入学後のものとします。過年度卒業者は卒業後の取組みでも構いません。

6 平成31年度個別学力検査等の出題範囲及び試験方法について

(1) 数学

数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学Aは全範囲から出題します。数学Bは「数列」，「ベクトル」を出題範囲とします。

(2) 総合問題

文章（英文を含む）や資料（図表，写真，絵，地図など）を題材に，読解力，論理的思考力，分析力，考察力を問います。

(3) 問題解決・提案力テスト

地域や社会に関する課題や事象に対する解決策や提案を，文章や図表，絵などにより，解答用紙に簡潔にまとめたものについて，企画力，発想力，表現力等を含む問題解決能力及び提案力を総合的に評価します。

筆記用具については募集要項に掲載します。

7 芸術地域デザイン学部芸術表現コース実技検査の選択方法について

(1) 前期日程

出願時に「3科目型」を選択した受験者には実技検査（描写表現），「4科目型」を選択した受験者には実技検査（発想表現）を課します。実技検査（描写表現）では，1)～3)のいずれかを出願時に選択します。出願後の変更はできません。

実技検査（描写表現）

- 1) 木炭による石膏デッサン 2) 鉛筆による石膏デッサン 3) 水彩による静物着彩

実技検査（発想表現）

発想・企画プレゼンテーション

持参道具については、募集要項に掲載します。

(2) 後期日程

出願時に1)～4)のいずれかを選択します。出願後の変更はできません。

実技検査（描写表現）

- 1) 木炭による石膏デッサン 2) 鉛筆による石膏デッサン 3) 水彩による静物着彩

実技検査（発想表現）

4) 発想・企画プレゼンテーション

持参道具については、募集要項に掲載します。

8 平成31年度大学入試センター試験の科目選択及び得点の取扱い等について

(1) 地歴・公民

1) 学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に2科目受験した場合の取扱いについては、「第1解答科目」の得点を採用します。

学部・学科等が指定した科目は、必ず「第1解答科目」で受験してください。

2) 学部・学科等が指定する科目を「第1解答科目」で受験せず、「第2解答科目」で受験した場合は、0点として取扱います。

なお、受験が認められていない同一名称を含む科目の組み合わせで2科目を選択した際に、「第1解答科目」を学部・学科等が指定していない科目を受験し、「第2解答科目」で受験した場合は、無資格として取扱い、検定料の一部を返還します。

*参考（取扱い例）

地歴・公民の指定科目	第1解答科目 の受験科目	第2解答科目 の受験科目	得点の取扱い
世B, 日B, 地理B, 倫・政経から1	世B	地理A	第1解答科目の「世B」を採用
	地理A	世B	地歴・公民の得点は0点
	世A	世B	無資格とします。

(2) 理科

1) 「基礎を付した科目」とは、「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」及び「地学基礎」の4出題科目のうちから2出題科目を選択することを表します。

2) 「基礎を付していない科目」とは、「物理」, 「化学」, 「生物」及び「地学」を表します。

3) 学部・学科等が「基礎を付した科目」及び「基礎を付していない科目」から2科目と指定する場合に「物理」と「物理基礎」など、同一名称を付した科目を選択することはできません。

4) 学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に「基礎を付していない科目」から2科目受験した場合は、「第1解答科目」の得点を採用します。また、「基礎を付した科目」及び「基礎を付していない科目」を受験した場合は、高得点を採用します。

(3) 数学

- 1) 学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に2科目受験した場合は、高得点の科目を採用します。
- 2) 医学部、理工学部、農学部については、「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）者に限ります。

(4) 複数教科・科目間の選択にかかる得点の取扱いについて（指定科目数を超えて受験している場合）

複数教科間の科目採用については、高得点順とします。ただし、地歴・公民及び理科（「基礎を付した科目」及び「基礎を付していない科目」を受験した場合を除く。）においては、「第1解答科目」を優先します。

(5) 外国語

外国語において英語を受験した者については、リスニングを受験してください。リスニング未受験の者については、失格とします。

（大学入試センターにおいて審査の上、リスニングの免除を許可された者を除きます。）

筆記試験200点満点、リスニング50点満点を以下のとおり換算し、利用します。

学 部 等	日 程	筆 記 試 験	リ ス ニ ン グ	合 計
教育学部	前 後 期 期	160点	40点	200点
芸術地域デザイン学部	前 後 期 期	160点	40点	200点
経済学部	前 後 期 期	160点	40点	200点
医学部	前 後 期 期	112点	28点	140点
	推 薦 II	128点	32点	160点
	佐賀県推薦			
理工学部	前 期	160点	40点	200点
	後 期	120点	30点	150点
	A O II	200点	50点	250点
農学部	前 後 期 期	80点	20点	100点
	生物科学コース 生命機能科学コース	A O II	160点	40点
	食資源環境科学コース			

※リスニングを免除された者については、各学部とも、筆記試験（200点満点）の得点を合計欄の点数に換算し、利用します。

9 JAPAN e-Portfolio の利用について

本学では文部科学省入学者選抜改革推進委託事業（主体性分野）に参画し、多面的・総合的評価の実現を目指しています。提出いただいたデータは今後の入学者選抜改革の参考としてのみ利用するため、入学者選抜の可否には一切影響いたしません。

10 平成31年度特別入試（推薦入試Ⅰ）出願資格・選抜方法〔教育，芸術，経済〕

出願資格・出願要件（全学部）											
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年3月卒業見込みの者 (2) 特別支援学校の高等部を平成31年3月卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年3月修了見込みの者 (4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で、合格した場合は確実に入学できる者 ※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す											
学部	学科・コース等	方式	募集人員	セ試	出願要件	提出書類	段階	試験			
								試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
教育学部	学校教育課程 幼小連携教育コース 特別支援教育専攻	推薦Ⅰ	5	×	(1) 将来、特別支援学校や小・中学校等で特別支援教育の仕事に携わる教員になることを強く志望する者 (2) 高等学校の調査書における評定平均値が3.8以上の者	調査書、推薦書		基礎学力試験（外国語）、小論文、面接	11/30	12/10	
	学校教育課程 小中連携教育コース 初等教育主専攻	推薦Ⅰ 〔佐賀県枠〕	5	×	(1) 佐賀県内の高等学校を平成31年3月に卒業見込みの者 (2) 将来、佐賀県下の小学校教員として活躍を期待するに十分な意欲、資質、適性等を有する者 (3) 高等学校の調査書における評定平均値が4.3以上の者	調査書、推薦書、志望理由書	1次	佐賀県教育委員会による書類審査	11/1 ～11/8	—	11/19頃
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 有田セラミック分野	推薦Ⅰ	5	×	学業成績、人物ともに特に優れ、芸術表現や当該分野に関して興味関心がある者、又は優れた経験・知識・技術・実績及び熱意がある者	調査書、推薦書、ポートフォリオ		面接（口頭試問を含む）、実技検査	11/1 ～11/8	11/30	12/10
経済学部	経済学科	推薦Ⅰ 〔商業系〕	10	×	(1) 全体の評定平均値が4.3以上の者で、人物、学力について優れる者 (2) 平成30年度中に高等学校の卒業を認められた者を含む	調査書、推薦書、志望理由書、特色加点申請書（任意）	小論文、面接（口頭試問を含む）	11/1 ～11/8	11/30	12/10	
	経営学科		20								
	経済学科	推薦Ⅰ 〔普通系〕	10	×							(1) 社会科学にとりわけ関心があり、かつ、人物について優れ全体の評定平均値が4.0以上の者 ただし、次のうちいずれかの要件を満たす者 ①成績優秀な者（外国語については評定平均値4.3以上） ②社会事象についての分析や、社会的活動等において優れた実績があり、それを裏付ける資料のある者 ③個性的で積極性に富み、高等学校長が、大学生活においてその能力を十分に発揮できると評価し、推薦に値すると思われる者 (2) 平成30年度中に高等学校の卒業を認められた者を含む
	経営学科		10								
経済法学科		10									

※出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件（全学部）に記載した学校及び施設を示す。

※「セ試」とは大学入試センター試験を示す。

評価基準	その他要件等
<p>(1) 調査書・推薦書の評価基準 学業成績、修学状況、部活動、社会活動等を見ます。</p> <p>(2) 小論文の評価基準 出題されたテーマに対して、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力を見ます。</p> <p>(3) 基礎学力試験の評価基準 高等学校の教科書程度の内容が十分理解できているかを、基礎的な問題によって評価します。</p> <p>(4) 面接の評価基準 勉学意欲、特別支援教育への興味・関心等を見ます。</p> <p>(5) 合否判定基準 書類（調査書及び推薦書）、小論文、基礎学力試験、面接の各成績評価を総合して、合格者を決定します。</p>	<p>・外国語はコミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ</p>
<p>(1) 調査書等の評価基準 学業成績が優秀かどうか、教職を目指す強い意志を持ち、教員になるための基礎的な資質、能力を兼ね備えているかを、調査書、推薦書、志望理由書等により評価します。</p> <p>(2) 小論文の評価基準 資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより、文章理解力、資料の内容に関する知識、論理的な思考力、文章構成力、表現力を評価します。</p> <p>(3) 面接の評価基準 志望動機、学習意欲、積極性、コミュニケーション能力について評価し、将来小学校教員になるための適性を備えているかを判断します。</p> <p>(4) 基礎学力試験の評価基準 高等学校の教科書程度の内容が十分理解できているかを、基礎的な問題によって評価します。</p> <p>(5) 合否判定基準 基礎学力試験の成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書、志願者の志望理由書を総合して、合格者を決定します。 佐賀県教育委員会による第1次選考（書類審査）を行い、その選考結果は、平成30年11月19日（月）頃通知します。 第2次選考については、第1次選考合格者に対して小論文、面接及び基礎学力試験を行い、各成績評価と書類審査の評価を総合して合格者を決定します。</p>	<p>・外国語はコミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ</p> <p>・数学は数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数Bで数Bは数列・ベクトル</p>
<p>(1) 調査書、推薦書、ポートフォリオ（※）の採点・評価基準 調査書では「各教科、科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。また、推薦書とポートフォリオでは、活動実績と芸術表現に対する意欲を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。 ※ポートフォリオは活動実績や作品などをA4用紙で5ページ以内のファイルにまとめて提出してください。</p> <p>(2) 面接の採点・評価基準 芸術表現を通して地域社会を考え、発想力、コミュニケーション能力等を有しているかを採点・評価基準とします。加えて、当該分野に関する口頭試問によって基礎的知識や制作活動の経験を把握し、当該分野に関する意欲の高さを評価します。</p> <p>(3) 実技検査の採点・評価基準 自らの手による表現力、発想力など芸術表現に関わる基本的な能力を有しているかを採点・評価基準とします。 静物着彩では、基礎的な造形力に加え水彩絵具による表現力なども総合的に評価します。粘土による造形表現では、基礎的な造形力と表現力などを総合的に評価します。</p> <p>(4) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書及びポートフォリオ）、面接及び実技検査の各成績評価を総合して、合格者を決定します。</p>	<p>・実技検査 静物着彩・粘土による造形表現から1 粘土による造形表現は、試験時に手びねり又はロクロ成形を選択 ・入学志願者が募集人員の約4倍を超えた場合は、書類（調査書、推薦書及びポートフォリオ）による第1次選考を行う場合がある</p>
<p>(1) 調査書等の採点・評価基準 学習状況、クラブ活動等を見ます。</p> <p>(2) 特色加点の採点・評価基準（申請者のみ） アドミッション・ポリシーに応じて、これまでの活動・実績を評価します。</p> <p>(3) 小論文の採点・評価基準 資料を提示の上、それについての読解力、着眼力、思考力、文章表現力等を基準として評価します。</p> <p>(4) 面接の採点・評価基準 高校生活の活動状況及び将来の学修意欲等について口頭試問します。</p> <p>(5) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。</p>	<p>・商業系（商業高等学校の全科を含む）・情報系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上）</p> <p>・「特色加点」とは志願者の主体的な活動をアドミッション・ポリシーに応じて加点する制度</p> <p>・普通科又はこれに準ずると本学部が認める科</p> <p>・出願要件の②については証明する資料を添付</p> <p>・「特色加点」とは志願者の主体的な活動をアドミッション・ポリシーに応じて加点する制度</p>

平成31年度特別入試（推薦入試Ⅰ）出願資格・選抜方法〔医，理工，農〕

出願資格・出願要件（全学部）												
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年3月卒業見込みの者 (2) 特別支援学校の高等部を平成31年3月卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年3月修了見込みの者 (4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で、合格した場合は確実に入学できる者 ※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す												
学部	学科・コース等	方式	募集人員	七試	出願要件	提出書類	段階	試験				
								試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日	
医学部	看護学科	推薦Ⅰ	20	×	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた看護職者あるいは看護学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者 (3) 平成30年4月以降に高等学校卒業を認められた者を含む	調査書、推薦書、自己推薦書		小論文、面接	11/1～11/8	12/1	12/10	
理工学部	理工学科	情報分野 知能情報システム工学コース 情報ネットワークコース	推薦Ⅰ 〔情報系〕	2	×	学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価される者	調査書、推薦書、活動実績報告書		基礎学力・学習力テスト、小論文、面接（口頭試問を含む。）	11/1～11/8	11/30	12/10
		化学分野 生命化学コース 応用化学コース	推薦Ⅰ 〔工業系〕	2								
		機械工学分野 機械エネルギー工学コース メカニカルデザインコース		4								
		電気電子工学分野 電気エネルギー工学コース 電子デバイス工学コース		4								
		都市工学分野 都市基盤工学コース 建築環境デザインコース		4								
農学部	生物資源科学科	生物科学コース	推薦Ⅰ 〔専門系〕	3	×	(1) 学習成績、人物について優れ、自然科学に対する熱意と能力があると評価される者 (2) 学習成績概評が㊤として推薦できる者	調査書、推薦書、活動実績報告書		基礎学力・学習力テスト、小論文、面接	11/1～11/8	11/30	12/10
		食資源環境科学コース		2								
		生命機能科学コース		1								

※出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件（全学部）に記載した学校及び施設を示す。

※「七試」とは大学入試センター試験を示す。

評価基準	その他要件等
<p>(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる 良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決 しうる能力を評価します。</p> <p>(2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる 上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優 れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。</p> <p>(3) 調査書等の採点・評価基準 単に学業成績優秀というのみでなく、規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性及協調性に富 んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価しま す。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。</p> <p>(4) 合否判定基準 小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合して合格者を決定します。 なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査書の「4. 学習成績概評」欄に④と標示する場合は、「9. 備考」欄にその理由を必ず明記 ・募集人員には、専門系の科及び総合学科の専門科目単位取得者(20単位以上)を含む ・推薦人数は各高校2人以内
<p>(1) 書類審査の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指 導上参考となる諸事項」等について、出願要件および理工学科の「求める学生像」から著しく 逸脱していないかを確認します。活動実績報告書では、申請された活動実績の内容について、 「専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学び を深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の観 点から評価します。</p> <p>(2) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。</p> <p>(3) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望分野に対する意欲等について、評価します。</p> <p>(4) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書、活動実績報告書等）、小論文及び面接等の各成績評価を総合して、合 格者を決定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト ・タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
<p>(1) 書類審査の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指 導上参考となる諸事項」等について、出願要件および理工学科の「求める学生像」から著しく 逸脱していないかを確認します。活動実績報告書では、申請された活動実績の内容について、 「専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学び を深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の観 点から評価します。</p> <p>(2) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。</p> <p>(3) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望分野に対する意欲等について、評価します。</p> <p>(4) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書、活動実績報告書等）、小論文及び面接等の各成績評価を総合して、合 格者を決定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工業系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト ・タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・機械系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト ・タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・電気・電子・情報系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト ・タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・土木・建築系の科、総合学科の専門科目単位取得者(20単位以上) ・基礎学力・学習力テスト ・タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
<p>(1) 書類審査の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指 導上参考となる諸事項」等について、出願要件および生物資源科学科の「求める学生像」から 著しく逸脱していないかを確認します。活動実績報告書では、申請された活動実績の内容につ いて、「専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら 学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能 性」の観点から評価します。</p> <p>(2) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。</p> <p>(3) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望コースに対する意欲等について、評価します。</p> <p>(4) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書、活動実績報告書等）、小論文及び面接等の各成績評価を総合して、合 格者を決定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査書の「9. 備考」欄に学習成績概評が④の理由を明記 ・専門系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・推薦人数は各高校の各課程から各コースに対し2人以内。ただし、生命機能科学コースは1人 ・基礎学力・学習力テスト ・タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います

11 平成31年度特別入試（推薦入試Ⅱ）出願資格・選抜方法〔医〕

出願資格・出願要件（全学部）										
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年3月卒業見込みの者 (2) 特別支援学校の高等部を平成31年3月卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年3月修了見込みの者 (4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で、合格した場合は確実に入学できる者 ※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す										
学部・学科等	募集人員	出願資格および出願要件	提出書類	評価基準	外国語					科目数
					英語 筆記	リスニング	ドイツ語	フランス語	中国語	
一般枠	20	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた医師あるいは医学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者 (3) 平成30年4月以降に高等学校の卒業を認められた者を含む	調査書、推薦書、自己推薦書	(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。 (3) 調査書等の採点・評価基準 単に学業成績優秀というのみでなく、規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱いします。 (4) 合否判定基準 大学入試センター試験の成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合して合格者を決定します。 なお、大学入試センター試験の成績が本学の基準を満たしていない場合、あるいは面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	◎◎					1
					160					
					一般枠と同じ					
佐賀県枠	23	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、佐賀県内の医療活動に貢献したいという強い意思を有する者 (3) 高等学校を平成31年3月に卒業見込みの者又は平成29年4月以降に卒業を認められた者で、次のいずれかに該当する者 ①佐賀県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者 ②佐賀県外の高等学校を卒業又は卒業見込みの者のうち、佐賀県内の小学校、中学校のいずれかを卒業し、保護者が佐賀県内に平成30年10月1日現在で3年以上在住している者（出願手続時に住民票あるいは戸籍の附票で確認） (4) 大学卒業後は、佐賀県内の基幹型臨床研修病院において、初期臨床研修（2年）を受けることを確約できる者	調査書、推薦書、自己推薦書、志願理由書、確約書	(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。また、将来、佐賀県内での医療活動に従事し県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す意思の有無も評価の基準とします。 (3) 佐賀県からの推薦書等 単に学業成績優秀というのみでなく、規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富んでいるかを、佐賀県からの推薦書及び添付書類を参考に評価します。 (4) 合否判定基準 佐賀県からの推薦書等、小論文、面接、大学入試センター試験の成績を総合的に判断して、合格者を決定します。 なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	◎◎					1
					160					
長崎県枠	1	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、長崎県内の地域医療に貢献したいという強い意思を有する者 (3) 高等学校を平成31年3月に卒業見込みの者又は平成29年4月以降に卒業を認められた者で、次のいずれかに該当する者 ①長崎県内の小学校又は中学校を卒業した者 ②長崎県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者 (4) 入学後は「長崎県医学修学資金」の貸与を受け、大学卒業後は長崎県が指定する長崎県内医療機関等で診療に従事することを確約できる者	調査書、推薦書、自己推薦書、志願理由書、確約書	(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。また、将来、佐賀県内での医療活動に従事し県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す意思の有無も評価の基準とします。 (3) 佐賀県からの推薦書等 単に学業成績優秀というのみでなく、規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富んでいるかを、佐賀県からの推薦書及び添付書類を参考に評価します。 (4) 合否判定基準 佐賀県からの推薦書等、小論文、面接、大学入試センター試験の成績を総合的に判断して、合格者を決定します。 なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	◎◎					1
160										
一般枠と同じ										

12 平成31年度特別入試（佐賀県推薦入学）出願資格・選抜方法〔医〕

試験方法：大学入試センター試験、小論文、面接、書類審査											
試験日：（1次）平成30年11月17、18日、（2次）平成30年12月1日											
出願期間：（1次）平成30年11月1日～8日、（2次）平成30年11月21日～26日											
合格者発表日：（1次）平成30年11月19日、（2次）平成31年2月13日											
学部・学科等	募集人員	出願資格および出願要件	段階	提出書類	評価基準	外国語					科目数
						英語 筆記	リスニング	ドイツ語	フランス語	中国語	
医学部医学科	2	(1) 佐賀県が責任をもって推薦できる者（佐賀県による第一次選考合格者） (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、佐賀県内での医療活動に従事し、県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す者 (3) 高等学校を平成31年3月に卒業見込みの者若しくは平成28年4月以降に卒業を認められた者、又は、高等専門学校第3学年を平成31年3月修了見込みの者若しくは平成28年4月以降に修了した者で、いずれも高等学校等における調査書の全体の評定平均値が4.0以上である者（高等学校には、中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む） (4) 最終合格者は、必ず佐賀大学医学部に入学し、卒業後は佐賀県内で医療に貢献することを確約できる者	1次	調査書、推荐信、確約書	(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。また、将来、佐賀県内での医療活動に従事し県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す意思の有無も評価の基準とします。 (3) 佐賀県からの推薦書等 単に学業成績優秀というのみでなく、規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富んでいるかを、佐賀県からの推薦書及び添付書類を参考に評価します。 (4) 合否判定基準 佐賀県からの推薦書等、小論文、面接、大学入試センター試験の成績を総合的に判断して、合格者を決定します。 なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	◎◎					1
						160					
160											
一般枠と同じ											

【表の見方】

- ①◎は必須教科の必須科目、○は必須教科の選択科目。
- ②大学入試センター試験では「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」は必ず2科目セットでの選択が必要。この場合の科目数は2つ合わせて「1科目」として扱う。
- ③大学入試センター試験の理科における受験パターンをA～Dで表示。Aは基礎2科目、Bは基礎2科目又は専門1科目、Cは基礎2科目及び専門1科目、Dは専門2科目。
- ④大学入試センター試験外国語の英語はリスニングの受験が必須です。
- ⑤大学入試センター試験を利用する場合、必要な教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は失格となる。

大学入試センター試験																				教科 科目数	書類審査 (調査書、 志望理由 書等)	小 論 文	面 接	合 計 点	その他要件等					
数学					地理歴史・公民					理科					満点															
国語	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅲ	簿・情	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治経済	倫理・政経		科目数	基礎	専門	科目数											
◎	◎	◎	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	2	5・7	◎	◎	◎	1,240	<ul style="list-style-type: none"> 調査書の「4. 学習成績概評」欄に④と標示する場合は、「9. 備考」欄にその理由を必ず明記 入学志願者が募集人員の約5倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類(調査書、推薦書等)による第1次選考を行う場合がある 推薦人数は各高校2人以内
160	160				80					D 160					720	280	120	120												
一般枠と同じ						一般枠と同じ						一般枠と同じ						<ul style="list-style-type: none"> 調査書の「4. 学習成績概評」欄に④と標示する場合は、「9. 備考」欄にその理由を必ず明記 保護者とは、子に対して親権を行う者、親権を行う者のないときは、未成年者後見人をいう。(本学における保護者の定義は学校教育法から引用) 入学志願者が募集人員の約5倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類(調査書、推薦書等(学校長推薦書))による第1次選考を行う場合がある 合格者は県内医療活動に従事し、地域医療を担う人材を育成するための佐賀県医師研修学資金の貸与を受けられる 佐賀県医師研修学資金については佐賀県福祉保健部医務課に問い合わせ 												
一般枠と同じ						一般枠と同じ						一般枠と同じ						<ul style="list-style-type: none"> 調査書の「4. 学習成績概評」欄に④と標示する場合は、「9. 備考」欄にその理由を必ず明記 入学志願者が募集人員の約10倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類(調査書、推薦書等(学校長推薦書))による第1次選考を行う場合がある 長崎県医学修学資金については長崎県福祉保健部に問い合わせ 												

大学入試センター試験																				教科 科目数	書類審査 (調査書、 志望理由 書等)	小 論 文	面 接	合 計 点	その他要件等								
数学					地理歴史・公民					理科					満点																		
国語	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅲ	簿・情	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治経済	倫理・政経		科目数	基礎	専門	科目数														
◎	◎	◎	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	2	5・7	◎	◎	◎	1,240	<ul style="list-style-type: none"> 佐賀県在住者だけでなく、日本国内の居住者も対象 佐賀県から佐賀大学への推薦人数は6人程度 第1次選考については佐賀県健康福祉部医務課に問い合わせ 			
160	160				80					D 160					720	260	120	140															
一般枠と同じ						一般枠と同じ						一般枠と同じ						<ul style="list-style-type: none"> 佐賀県が行う第1次選考を経て、佐賀県の推薦により佐賀大学医学部による第2次選考を受験する資格を得た者 															

13 平成31年度特別入試（AO入試Ⅰ）出願資格・選抜方法〔教育，芸術〕

学部	学科・コース等	方式	募集人員	七試	出願資格および出願要件	提出書類	試験			
							試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
教育学部	学校教育課程 小中連携教育コース 初等教育主免専攻	AO入試Ⅰ	10	×	(1) 次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月以降に卒業した者及び平成31年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月以降に修了した者及び平成31年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成29年4月以降にこれに該当する者及び平成31年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 英語、理数、音楽、体育、家庭のいずれかの分野に関して特に意欲・関心が高く、その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3) 入学後、初等教育を中心に学修を行う意欲を有し、将来、小学校等の教員になることを強く志望する者 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、 志願理由書、 活動実績報告書	小論文、面接（口頭試験を含む）、 志望分野に関する適性検査	8/16 ～8/27	9/26 音楽分野は 9/26・27	10/10
	8		×	(1) 次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月以降に卒業した者及び平成31年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月以降に修了した者及び平成31年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成29年4月以降にこれに該当する者及び平成31年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 英語、理数、音楽、保健体育、家庭、技術のいずれかの分野に関して特に意欲・関心が高く、その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3) 入学後、中等教育を中心に学修を行う意欲を有し、将来、中学校等の教員になることを強く志望する者 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者						
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 美術・工芸分野	AO入試Ⅰ	5	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を平成31年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成30年4月以降にこれに該当する者及び平成31年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 芸術表現コースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、 志願理由書、 ポートフォリオ	志望分野に関する適性検査、面接	8/16 ～8/27	9/26	10/10
	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 有田セラミック分野		5	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成31年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者及び平成31年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 地域デザインコースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者					
	芸術地域デザイン学科 地域デザインコース		15	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成31年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者及び平成31年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 地域デザインコースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者					

※「七試」とは大学入試センター試験を示す。

評価基準	その他要件等
<p>(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、出願資格および出願要件の(2)(3)および本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。</p> <p>(2) 活動実績報告書の評価基準 志望分野に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績、外部の英語検定試験の成績、留学経験、大会・コンクール等の実績）を評価します。</p> <p>(3) 小論文の評価基準 学校教育に関する資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより、文章理解力、資料の内容に関する知識、論理的な思考力、文章構成力、表現力を評価します。</p> <p>(4) 面接の評価基準 志望動機、専門領域に関する知識や理解、修学意欲、積極性、コミュニケーション能力等を評価し、将来小学校等の教員になるための適性を備えているかを判断します。</p> <p>(5) 適性検査の評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。</p> <p>(6) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書）、小論文、面接及び適性検査（活動実績報告書の評価を含む）の各成績評価を総合して、合格者を決定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適性検査内容 英語分野：筆記試験とタブレット端末を用いた試験により、英語4技能を総合的に測定 理数分野：理科学分野または数学分野に関する研究内容をまとめた資料（持参）をもとに発表及び質疑応答 音楽分野：専攻楽器（または声楽）の個別レッスン2回、ソルフェージュの個別レッスン1回 体育分野：基礎運動能力（背筋力、反復横とび、ジャンプ力、ソフトボール投げ） 家庭分野：与えられたテーマについてのプレゼンテーション資料の作成、個別発表及び質疑応答 <p>・入学志願者が多く、適性検査を適切に行うことが困難な場合は、書類（調査書、志願理由書及び活動実績報告書）により、第1次選考を行う場合がある</p>
<p>(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、出願資格および出願要件の(2)(3)および本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。</p> <p>(2) 活動実績報告書の評価基準 志望分野に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績、外部の英語検定試験の成績、留学経験、大会・コンクール等の実績）を評価します。</p> <p>(3) 小論文の評価基準 学校教育に関する資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより、文章理解力、資料の内容に関する知識、論理的な思考力、文章構成力、表現力を評価します。</p> <p>(4) 面接の評価基準 志望動機、専門領域に関する知識や理解、修学意欲、積極性、コミュニケーション能力等を評価し、将来中学校等の教員になるための適性を備えているかを判断します。</p> <p>(5) 適性検査の評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。</p> <p>(6) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書）、小論文、面接及び適性検査（活動実績報告書の評価を含む）の各成績評価を総合して、合格者を決定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適性検査内容 英語分野：筆記試験とタブレット端末を用いた試験により、英語4技能を総合的に測定 理数分野：理科学分野または数学分野に関する研究内容をまとめた資料（持参）をもとに発表及び質疑応答 音楽分野：専攻楽器（または声楽）の個別レッスン2回、ソルフェージュの個別レッスン1回 保健体育分野：基礎運動能力（背筋力、反復横とび、ジャンプ力、ソフトボール投げから2）及び学校体育教材（バスケットボール、サッカー、バレーボールから2）における運動技能 家庭分野：与えられたテーマについてのプレゼンテーション資料の作成、個別発表及び質疑応答 技術分野：与えられたテーマについてレゴブロックを用いて作品をつくり、プレゼンテーション及び質疑応答 <p>・入学志願者が多く、適性検査を適切に行うことが困難な場合は、書類（調査書、志願理由書及び活動実績報告書）により、第1次選考を行う場合がある</p>
<p>(1) 調査書、志願理由書、ポートフォリオ（※）の採点・評価基準 調査書では「各教科、科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。また、志願理由書とポートフォリオでは、活動実績と芸術表現に対する意欲を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。 ※ポートフォリオは活動実績や作品などをA4用紙で5ページ以内のファイルにまとめて提出してください。</p> <p>(2) 面接の評価基準 熱意、修学意欲、積極性、主体性、発想力等を総合的に評価します。</p> <p>(3) 適性検査の採点・評価基準 教科・科目から判断される基礎学力とは異なる主体性や分析力、行動力及び考察力を重視した多面的・総合的な採点、評価を行います。</p> <p>(4) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書及びポートフォリオ）、適性検査及び面接の各成績評価を総合して、合格者を決定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適性検査内容 模擬授業を受講後に作品制作を行います。 <p>・入学志願者が募集人員の約5倍を超えた場合は、書類（調査書、志願理由書及びポートフォリオ）による第1次選考を行う場合がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適性検査内容 模擬授業を受講後に作品制作を行います。 <p>・入学志願者が募集人員の約5倍を超えた場合は、書類（調査書、志願理由書及びポートフォリオ）による第1次選考を行う場合がある</p>
<p>(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。</p> <p>(2) 特色加点の採点・評価基準（申請者のみ） 本コースのアドミッション・ポリシーに応じて、これまでの活動・実績を評価します。</p> <p>(3) 面接の評価基準 熱意、修学意欲、積極性、主体性等を総合的に評価します。</p> <p>(4) 小論文の採点基準 読解力、論理的思考力、分析力、考察力、企画力、発想力、表現力等を総合的に判断します。</p> <p>(5) 適性検査の採点・評価基準 コミュニケーション能力、論理性、表現力等を総合的に評価します。</p> <p>(6) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書、特色加点申請書〈申請者のみ〉）、小論文、適性検査及び面接の各成績評価を総合して、合格者を決定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適性検査内容 与えられたテーマについてのプレゼンテーション資料の作成、個別発表及び質疑応答 <p>・「特色加点」とは志願者のこれまでの主体的な活動をアドミッション・ポリシーに応じて加点する制度</p> <p>・入学志願者が募集人員の約5倍を超えた場合は、書類（調査書、志願理由書及び特色加点申請書〈申請者のみ〉）による第1次選考を行う場合がある</p>

平成31年度特別入試（AO入試Ⅰ）出願資格・選抜方法〔理工，農〕

学部	学科	コース等	方式	募集人員	セ試	出願資格および出願要件	提出書類	試験			
								試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
理工学部	理工学科	数理分野 数理サイエンスコース	AO入試Ⅰ	5	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月以降に卒業した者及び平成31年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月以降に修了した者及び平成31年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成29年4月以降にこれに該当する者及び平成31年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 志望分野への志望動機が明確で入学後も学習に対し意欲的に取り組む者 (3) 以下に指定している科目を履修している者 数理分野・・・数学Ⅲ 化学分野・・・数学Ⅲ、化学 その他の分野・・・数学Ⅲ、物理 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、志望理由書、活動実績報告書	適性検査、面接（口頭試問を含む）	11/1～11/8	11/30	12/10
		情報分野 知能情報システム工学コース 情報ネットワーク工学コース		8							
		化学分野 生命化学コース 応用化学コース		5							
		物理学分野 物理学コース		7							
		機械工学分野 機械エネルギー工学コース メカニカルデザインコース		10							
		電気電子工学分野 電気エネルギー工学コース 電子デバイス工学コース		5							
		都市工学分野 都市基盤工学コース 建築環境デザインコース		4							
農学部	生物資源科学科	国際・地域マネジメントコース	AO入試Ⅰ	5	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月以降に卒業した者及び平成31年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月以降に修了した者及び平成31年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成29年4月以降にこれに該当する者及び平成31年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 国際・地域マネジメントコースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、志望理由書、活動実績報告書	適性検査、面接			

※「セ試」とは大学入試センター試験を示す。

評価基準	その他要件等
<p>(1) 書類審査の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および理工学科の「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。志望理由書では、「本分野で学びたいという強い意欲」について評価します。活動実績報告書では、申請された活動実績の内容について、「専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の観点から評価します。調査書、志望理由書および活動実績報告書のそれぞれの評価を考慮しながら、総合的に評価したものを書類審査の得点とします。</p> <p>(2) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望分野に対する意欲等について評価します。</p> <p>(3) 適性検査の採点・評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。</p> <p>(4) 合否判定基準 書類（調査書、志望理由書及び活動実績報告書等）、面接及び適性検査の各成績評価を総合して、合格者を決定します。</p>	<p>・適性検査の内容</p> <p>数理分野：数学の知識を活用した問題を出題することにより、知識のみならず論理プロセスも重視した数学に対する適性を評価します（ペーパーテストで実施）。出題範囲は、数学ⅠA、数学ⅡB、数学Ⅲとします。数学Bは「数列」、「ベクトル」から出題します。</p> <p>情報分野：問題文や資料等から処理手順を読み取り、そのアルゴリズムを示すことができるかについての論理的思考力を評価します（出題する内容に応じて、ペーパーテストまたは口頭試問により実施）。</p> <p>化学分野：化学実験などに関する動画や資料（写真や図表など）を題材に、知識のみならず論理プロセスも重視した化学や科学的思考力に対する適性を評価します（タブレット端末で問題を提示し、解答用紙に解答）。</p> <p>物理学分野：物理や数学の知識を活用した問題を出題することにより、知識のみならず論理プロセスも重視した物理に対する適性を評価します（ペーパーテストで実施）。</p> <p>機械工学分野：機械工学に関連した事項を題材とした問題を出題することにより、高等学校で学ぶ知識のみならず問題解決能力や論理的思考力を重視した機械工学に対する適性を評価します。</p> <p>電気電子工学分野：電気及び力学に関する物理の問題を出題することにより、知識のみならず論理的思考力も重視した上で、電気電子工学に対する適性を評価します（ペーパーテストで実施）。</p> <p>都市工学分野：数学（数ⅡB（確率と統計・ベクトル・数列）・数Ⅲ（微分・積分）と物理（力学・熱力学・エネルギー・波動）に関する融合問題により、知識のみならず論理的思考も重視した数学と物理の素養を評価します（ペーパーテストで実施）。</p>
<p>(1) 書類審査の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および生物資源科学科の「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。志望理由書では、「本コースで学びたいという強い意欲」について評価します。活動実績報告書では、申請された活動実績の内容について、「専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の観点から評価します。調査書、志望理由書および活動実績報告書のそれぞれの評価を考慮しながら、総合的に評価したものを書類審査の得点とします。</p> <p>(2) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望コースに対する意欲等について評価します。</p> <p>(3) 適性検査の採点・評価基準 志望するコースの適性及び基礎能力を評価します。</p> <p>(4) 合否判定基準 書類（調査書、志望理由書及び活動実績報告書等）、面接及び適性検査の各成績評価を総合して、合格者を決定します。</p>	<p>・適性検査内容 提示した課題や資料等（図表や動画を含む）を題材として、高等学校等で学ぶ基本的な統計処理や、食料・農業・環境・健康問題などに関する時事的な話題を含む基礎知識を前提に、分析力、判断力、論理的思考力、コミュニケーション力（発信力）、想像力の観点から、学習する力（適性）を総合的に評価します。課題や資料等の提示はタブレット端末を用いて行い、解答は解答紙への筆記や口頭（集団討論形式の場合もあり）で行います。</p>

14 平成31年度特別入試（AO入試Ⅱ）出願資格・選抜方法〔理工，農〕

学部・学科等		方式	募集人員	出願資格および出願要件	提出書類	評価基準
理工学部 理工学科	数理分野 数理サイエンスコース	AO入試Ⅱ	2	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月以降に卒業した者及び平成31年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月以降に修了した者及び平成31年3月31日までに修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成29年4月以降にこれに該当する者及び平成31年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 志望分野への志望動機が明確で入学後も学習に對し意欲的に取り組む者 (3) 以下に指定している科目を履修している者 数理分野……数学Ⅲ 化学分野……数学Ⅲ、化学 その他の分野……数学Ⅲ、物理 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、志望理由書、活動実績報告書(※)	(1) 書類審査の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および理工学科の「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。志望理由書では、「本分野で学びたいという強い意欲」について評価します。活動実績報告書では、申請された活動実績の内容について、「専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の観点から評価します。 調査書、志望理由書および活動実績報告書のそれぞれの評価を考慮しながら、総合的に評価したものを書類審査の得点とします。 (2) 合否判定基準 大学入試センター試験の成績及び書類（調査書、志望理由書及び活動実績報告書等）を総合して、合格者を決定します。
	情報分野 知能情報システム工学コース 情報ネットワーク工学コース		7			
	化学分野 生命化学コース 応用化学コース		15			
	物理学分野 物理学コース		3			
	機械工学分野 機械エネルギー工学コース メカニカルデザインコース		10			
	電気電子工学分野 電気エネルギー工学コース 電子デバイス工学コース		12			
	都市工学分野 都市基盤工学コース 建築環境デザインコース		12			
農学部 生物資源科学科	生物科学コース	10	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月以降に卒業した者及び平成31年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月以降に修了した者及び平成31年3月31日までに修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成29年4月以降にこれに該当する者及び平成31年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 各コースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、志望理由書、活動実績報告書(※)	(1) 書類審査の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および生物資源科学科の「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。志望理由書では、「本コースで学びたいという強い意欲」について評価します。活動実績報告書では、申請された活動実績の内容について、「専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の観点から評価します。 調査書、志望理由書および活動実績報告書のそれぞれの評価を考慮しながら、総合的に評価したものを書類審査の得点とします。 (2) 合否判定基準 大学入試センター試験の成績及び書類（調査書、志望理由書及び活動実績報告書等）を総合して、合格者を決定します。	
	食資源環境科学コース	8				
	生命機能科学コース	10				

【表の見方】

- ①◎は必須教科の必須科目，○は必須教科の選択科目。
 - ②大学入試センター試験では「物理基礎，化学基礎，生物基礎，地学基礎」は必ず2科目セットでの選択が必要。この場合の科目数は2つ合わせて「1科目」として扱う。
 - ③大学入試センター試験の理科における受験パターンをA～Dで表示。Aは基礎2科目，Bは基礎2科目又は専門1科目，Cは基礎2科目及び専門1科目，Dは専門2科目。
 - ④大学入試センター試験外国語の英語はリスニングの受験が必須です。
- ※活動実績報告書の提出方法については「4 理工学部と農学部の特色加点（一般入試）及び活動実績報告書（AO入試Ⅱ）の申請・提出方法（28ページ）」をご参照ください。

大学入試センター試験																												書類審査 (調査書、 志望理由 書等)	合計点						
分野等	外国語					国語	数学					地理歴史・公民							理科							教科 科目数									
	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	科目数	国語	数学 I	数学 I A	数学 II	数学 II B	簿・情	科目数	世界史 A	世界史 B	日本史 A	日本史 B	地理 A	地理 B	現代社会	倫理	政治経済	倫理・政経	科目数	基礎					専門			科目数	満点	
	筆記	リスニング																																	
数理分野	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○																			◎	1,100			
	250					100	300					100							D 250							5・7	1,000	100							
情報分野	数理分野と同じ																																		
化学分野	数理分野と同じ																																		
物理学分野	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○																			◎	1,100			
	250					100	300					100							D 250							5・7	1,000	100							
機械工学分野	物理学分野と同じ																																		
電気電子工学分野	数理分野と同じ																																		
都市工学分野	物理学分野と同じ																																		
生物科学コース	○	○	○	○			◎	◎	○	○	○	○																			◎	1,100			
	200					200	200					100							C, D 200							5・7	900	200							
食資源環境科学コース	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○																			◎	600			
	100					50	100					50							C, D 200							5・7	500	100							
生命機能科学コース	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○																			◎	950			
	200					100	200					100							C, D 200							5・7	800	150							

15 平成31年度特別入試（帰国子女，社会人）出願資格・選抜方法〔医，理工，農〕

学部	学科	方式	募集人員	七試	出願資格および出願要件	提出書類	試験												
							試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日									
医学部	医学科		若干人	×	<p>日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者であって、外国の学校教育を受けた者のうち、保護者とともに2年以上継続して外国に在留し、次のいずれかに該当する者となります。</p> <p>ただし、平成29年3月31日以前に帰国（一時的な短期の帰国を除く）した者及び保護者が帰国した後、本人が帰国するまでの期間が2年以上経過した者は、出願を認めません。</p> <p>(1) 学校教育における12年の課程を平成29年4月1日から平成31年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、原則として、外国において最終学年を含め、2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者</p> <p>ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。</p> <p>(2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成29年又は平成30年に授与された者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成29年又は平成30年に授与された者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成29年又は平成30年に授与された者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(5) 英国において大学入学資格として認められているGCE-Aレベル資格を取得した者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(6) 国際的な評価団体（WASC, ACSI, CIS）から認定を受けた外国に所在する教育施設において、12年の課程を修了した者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者</p>	証明書類	学力検査（数学・理科・外国語）、面接	2/25・26	3/9										
											理工学部	理工学科	若干人	×	<p>日本国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者であって、外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者となります。</p> <p>(1) 学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を外国又は日本において、平成29年4月1日から平成31年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、卒業（修了）時点から起算して過去4年間の内、外国において2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者</p> <p>ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。</p> <p>(2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成29年又は平成30年に授与された者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成29年又は平成30年に授与された者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成29年又は平成30年に授与された者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(5) 英国において大学入学資格として認められているGCE-Aレベル資格を取得した者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(6) 国際的な評価団体（WASC, ACSI, CIS）から認定を受けた外国に所在する教育施設において、12年の課程を修了した者で、平成31年3月31日までに18歳に達する者</p>	小論文、面接（口頭試問を含む）	11/30	12/10	

※「七試」とは大学入試センター試験を示す。

評価基準	その他要件等
<p>(1) 学力検査の教科名・科目名等 数学 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B(注) 理科 物基・物、化基・化 外国語 コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ (注) 数学は、数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数Aは全範囲から出題します。数Bは「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。</p> <p>(2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。</p> <p>(3) 合否判定基準 学力検査、面接、提出書類を総合して最終的な合格者を決定します。 なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。</p>	
<p>(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、解釈力、論理的思考力、表現力及び記述力等を見ます。</p> <p>(2) 面接の採点・評価基準 必要な基礎知識、自己の目標、志望学科に対する意欲を問います。</p> <p>(3) 合否判定基準 書類(成績証明書等)、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。</p>	
<p>(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。</p> <p>(2) 面接の採点・評価基準 これまでの社会人としての経験を生かした、看護学科志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通じて評価し、将来優れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。 なお、志願理由書及び調査書は面接にあたって参考にします。</p> <p>(3) 合否判定基準 小論文及び面接の結果を総合して、合格者を決定します。 小論文及び面接の配点 小論文200点、面接60点(総得点260点)</p>	

16 特別入試（推薦入試Ⅰ，AO入試Ⅰ）の配点について

推薦入試Ⅰ

区分 学部、学科・課程等名		書類審査 (調査書, 推薦書等)	小論文	面接	実技検査	その他	大学入試 センター 試験	総合得点 (総合評価)	特色 加点
教育学部	学校教育課程								
	幼小連携教育コース 特別支援教育専攻	100	100	100		100 (注1)		400	
	小中連携教育コース 初等教育主免専攻 [佐賀県枠]	50	100	150		200 (注1)		500	
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 有田セラミック分野	300		300	400			1000	
経済学部	経済学科	商業系の科・ 情報系の科・ 総合学科推薦	2段階評価 (合, 否)	100	2段階評価 (合, 否)			2段階評価 (合, 否) (注2)	40
	経営学科								20
	全学科	普通科又はこれに準ずると 本学部が認める科推薦							
医学部	看護学科	150	200	150				500	
理工学部	理工学科	知能情報システム工学コース	3段階評価	3段階評価	4段階評価			3段階評価 (注3)	5段階評価
		情報ネットワーク工学コース							
		生命化学コース							
		応用化学コース							
		機械エネルギー工学コース							
		メカニカルデザインコース							
電気エネルギー工学コース									
電子デバイス工学コース									
都市基盤工学コース									
建築環境デザインコース									
農学部	生物資源科学科	生物科学コース	100	100	100		200 (注3)	500	
		食資源環境科学コース	100	200	200		100 (注3)	600	
		生命機能科学コース	150	200	200		50 (注3)	600	

(注1) 基礎学力試験

(注2) 特色加点の得点を加味して評価します。

(注3) 基礎学力・学習力テスト

AO 入試 I

学部, 学科・課程等名			区分	書類審査 (調査書, 志願理由書等)	小論文	面接	適性検査	大学入試 センター 試験	総合得点 (総合評価)	特色加点
教育学部	学校教育課程	小中連携教育コース	初等教育主免専攻	100	100	150	200 (注1)	/	550	/
			中等教育主免専攻							
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科	芸術表現コース	美術・工芸分野	200	/	200 (注2)	400	/	800	/
			有田セラミック分野							
			地域デザインコース	2段階評価 合, 否	300	200	500 (注3)	/	1000	100
理工学部理工学科	数理サイエンスコース		3段階評価	/	4段階評価	5段階評価	/	5段階評価	/	
	知能情報システム工学コース 情報ネットワーク工学コース									
	生命化学コース 応用化学コース									
	物理学コース									
	機械エネルギー工学コース メカニカルデザインコース									
	電気エネルギー工学コース 電子デバイス工学コース									
	都市基盤工学コース 建築環境デザインコース									
農学部 生物資源科学科 国際・地域マネジメントコース			150	/	150	200	/	500	/	

(注1) 適性検査の評価に活動実績報告書の評価も含まれます。

(注2) 面接は適性検査に関する質疑応答を含みます。

(注3) プレゼンテーション資料作成の評価を300点, プレゼンテーション及び質疑応答の評価を200点とします。

17 特色加点制度について（特別入試）

「特色加点」とは、志願者の積極的なアピールと高等学校入学以降の主体的な活動を喚起することを目的とした佐賀大学の新しい制度です。センター試験、個別試験などの合計点(以下、「当初配点」という。)とは別に、書類審査として加点枠を設けます。

特色加点は、志願者が取り組んできた様々な活動や実績を踏まえた申請内容を評価の対象とします。申請された活動・実績の概要や取り組み状況、志望分野との関連性、入学後に期待できる主体的な学習行動や活動、根拠資料の内容等について、アドミッション・ポリシーの観点から評価します。志願者の申請を原則とし、申請がなければ当初配点のみで合否判定を行います。各学部の評価の考え方は、以下の通りです。

(1) 芸術地域デザイン学部（AO 入試 I）

申請する活動・実績は、高等学校入学以降に取り組んだ主体的な活動や実績であれば何でも構いません。地域デザインコースの学びを理解し、入学後に何を生かせるかなどをしっかりと考えた上で積極的にアピールしてください。申請内容を補完する根拠となる資料等も重要です。アドミッション・ポリシーで示す「地域社会が抱える問題に関心があり、芸術を通じて地域社会を機能的に繋げていける企画力、発想力、表現力」、「主体的にものごとに取り組むことができる積極的な行動力」、「高等学校入学以降の主体的な実績・活動」について総合的に評価します。活動・実績の具体例として、地域創生などに関わる主体的な活動、課外活動（部活動や生徒会活動など）における実績や取り組み、研究活動（高大連携活動〈SSH, SGH 等を含む〉、総合的学習等での活動実績）、資格・検定試験など外部試験等の実績、海外留学経験、その他主体的な活動などが考えられます。

(2) 経済学部（推薦入試 I）

1) 商業系の科等推薦における評価対象

「簿記」「情報」「英語」「商業経済」の4分野に関する資格・検定について、その難易度に応じて評価します。

2) 普通科等推薦における評価対象

校内外を問わず、高等学校在学中に主体的に取り組んだ活動や実績について申請してください。校内活動としては、体育系・文化系の部活動、生徒会活動、課題研究（探究型学習）など、校外活動としては、社会活動（ボランティア、地域活動）、海外留学、スポーツ活動、文化・芸術活動、検定・資格取得、課題研究（探究型学習）などが該当します。なお、「課題研究（探究型学習）」に関する活動とは、校内外を問わず、高等学校在学中に取り組んだ課題研究（探究型学習）に関する活動です。高等学校の総合的な学習の時間等での課題研究（探究型学習）といった校内活動、大学（本学または他大学）による高校生対象の課題研究（探究型学習）や、国・地方公共団体・企業・大学等が実施する課題研究型コンテストへの出場（ビジネスプランコンテスト、まちづくりプランコンテスト、社会科学系の論文コンテスト等）といった校外活動が該当します。

VIII 私費外国人留学生入試

本学では、私費外国人留学生のために特別の学力検査等を実施します。

1 出願資格

日本の国籍を有しない者で、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」（平成30年6月又は平成30年11月実施のいずれか、医学部は平成30年11月実施のみ）を受験し、TOEFLを受験済みの者（経済学部を除く。）で、次に掲げる入学資格を有する者

- (1) 日本国外において、学校教育による12年の課程を修了した者及び平成31年3月までに修了見込みの者
- (2) 上記(1)に準ずる者で、文部科学大臣の指定する者

2 募集人員

各学部（教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、医学部(医学科)、理工学部、農学部）とも若干人

3 入学者選抜方法

- (1) 教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、農学部

入学者の選抜は、次頁のとおり独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績及びTOEFLの成績（経済学部を除く）並びに本学が行う学力検査・面接等の成績を総合的に判断し最終的な合格者を決定します。

- (2) 医学部

入学者の選抜は、次表のとおり独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績及びTOEFLの成績並びに本学が行う学力検査・面接を総合的に判断し最終的な合格者を決定します。

※学力検査の教科・科目名等

数 学 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B（注）

理 科 物基・物、化基・化

外国語 コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ

（注）数学は、数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数Aは全範囲から出題します。数Bは「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

事 項	教育学部		芸術地域 デザイン学部		経済学部	医学部	理工学部	農学部
			芸術表現コース	地域デザインコース				
利用する回の指定	6月, 11月のいずれか		6月, 11月のいずれか		6月, 11月のいずれか	11月	6月, 11月のいずれか	6月, 11月のいずれか
出題言語の指定	日本語		日本語		日本語	日本語	日本語又は英語	日本語
文系と理系の別	文系	理系	文系		文系	理系	理系	理系
日本留学試験 目 科	日 本 語	○	○	○	○	○	○	○
	理 科	/	○	/	/	○	○	○
	数学(コース1)	△	△	△	○	/	/	/
	数学(コース2)	△	△	△	/	○	○	○
	総 合 科 目	○	/	○	○	/	/	/
理科の選択科目	/	「物理」, 「化学」, 「生物」から 2科目選択	/	/	「物理」, 「化学」, 「生物」から 2科目選択	「物理」, 「化学」, 「生物」から 2科目選択	「物理」, 「化学」, 「生物」から 2科目選択	
TOEFL	○		○		/	○	○	○
学力検査等	面接, 日本語(作文)		面接, 実技検査	面接, 日本語(作文)	面接, 日本語	面接, 学力検査	面接	面接
特記事項, 備考	面接を通じて, 教育学部の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。		鉛筆による デッサン (実技道具は大学で準備します。)		日本語は, 読解及び作文とします。	面接を通じて, 志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。	面接を通じて, 志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。	面接を通じて, 志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。

(注1) ○印は, 必ず受験しておくことを示します。

(注2) △印は, 数学のコース1又はコース2から1つを受験しておくことを示します。

(注3) 各学部第1志望のみ。

日本留学試験, TOEFL, 学力検査等の配点等

事 項	教育学部		芸術地域 デザイン学部		経済学部	医学部	理工学部	農学部
			芸術表現コース	地域デザインコース				
文系と理系の別	文系	理系	文系		文系	理系	理系	理系
日 本 語	450	450	450		325	450	450	450
理 科	/	200	/		/	200	200	200
数 学	200	200	200		100	200	200	200
総 合 科 目	200	/	200		100	/	/	/
TOEFL	300		300		/	300	300	300
面 接	400	400	500	400	合, 否	60	A, B, C	850
日 本 語	500	500	/	500	300	/	/	/
学 力 検 査	/		/		/	240	/	/
実 技 検 査	/		400	/	/	/	/	/
総 合 評 価 等	2050		2050		合, 否	合, 否	良, 可, 不可	合, 否

4 入試日程

学 部	出願期間	試 験 日	合格者発表日
教育学部, 芸術地域デザイン学部, 経済学部, 理工学部, 農学部	平成31年1月18日(金)	平成31年3月1日(金)	平成31年3月9日(土)
医学部	平成31年1月23日(水)	平成31年2月25日(月) 平成31年2月26日(火)	

IX 障がい等を有する志願者との事前相談について

障がい等を有する志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、出願前に下記の内容を記載した申請書（様式は任意）を入試課に送付し相談してください。

なお、本学では、学生支援室を設置して、障がい等のある学生及び障がい等のある入学志願者への支援を行っています。

*申請書の内容

志願学部・学科（コース・専攻）

障がいの種類・程度

受験上の配慮を希望する事項

修学上の配慮を希望する事項

出身学校等でとられていた配慮

日常生活の状況

連絡先（氏名、電話番号、住所、出身高校）

相談の時期

AO入試Ⅰ（教育学部、芸術地域デザイン学部）志願者	平成30年7月27日(金)まで
AO入試Ⅰ（理工学部、農学部）志願者	平成30年10月5日(金)まで
推薦入試志願者	
帰国子女特別入試志願者	
社会人特別入試志願者	
佐賀県推薦入学特別入試志願者	平成30年11月30日(金)まで
AO入試Ⅱ志願者	
私費外国人留学生入試志願者	平成31年1月21日(月)まで
一般入試志願者	

なお、相談の内容によっては、本学の試験までに対応できず、配慮を希望される措置が講じられない場合がありますので、可能な限り早めに相談してください。

また、期限後に本学を志願することとなった場合及び不慮の事故等により障がい等を有することとなった場合は、その時点で速やかに相談してください。

X 佐賀大学における個人ノートパソコン等の活用について

佐賀大学では、平成31年度入学生より、学生一人ひとりが個人のノートパソコン等を保有していることを前提とした教育を開始します。

目的

従来の大学では、教員が知識を伝達する講義が教育の中心でした。近年では、学生が自ら課題を発見し解決方法を開拓するアクティブラーニングと呼ばれる手法が重視されています。佐賀大学でも、授業中に学生がインターネットなどを通じて事例などを調査する、調査結果をグループで取りまとめ発表するなどのアクティブラーニング手法を取り入れようとしています。また、経済や交通、人口移動などのデータを分析し、新しいサービスを開発しようとするデータサイエンスの教育にも力を入れようとしています。このような教育を進めていくうえで、パソコンのある特別な教室ではなく、普通の教室の授業で、学生一人ひとりがノートパソコン等を持ち、活用できることが必要となります。

一人ひとりの PC

上記の目的を達成するために、平成31年度入学生より、学生一人ひとりにノートパソコン等を保有していることを求めることになりました。個人のノートパソコンを利用した授業は1年生から始まります。ただし、入学時以前からノートパソコンを保有している学生に、入学時に新たなノートパソコン等を購入することを求めるものではありません。専門科目が始まる2年次以前は、文書作成や表計算などの軽微な作業が中心ですので、大学入学以前に保有しているノートパソコンや、タブレット（キーボードは必要）でも十分です。

なお、佐賀大学では Microsoft の包括ライセンス契約を保有しており、Office（Word, Excel, PowerPoint 他）を無償で利用することができます。また、ウィルス対策ソフトウェアについても準備します。そのため、これらのソフトウェアを事前に購入する必要はありません。入学後にインストール作業等を支援します。

また、学内には無線 LAN を整備しています。学生は自由に利用することができます。

新規購入する場合のノートパソコンの性能などについては、12月ごろに、佐賀大学 HP 等を通じてお知らせする予定です。

本件に関する問い合わせ先
佐賀大学学務部教務課（教育企画）
TEL 0952-28-8163

佐賀大学 学務部 入試課

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地

TEL 0952-28-8178

ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp/>

e - m a i l contact@mail.admin.saga-u.ac.jp